

HIROSHIMA UNIVERSITY BHS NEWS

Hiroshima University Graduate School of Biomedical & Health Sciences

目次

Greetings ご挨拶	2
My Motto 座右の銘	4
Research Frontline 研究最前線	5
Excellent Paper すぐれた論文	7
Prize Winner 各賞受賞者リスト	8
Air Mail 広大から海外へ留学している若手の日記	9
Meeting Report 院生の国際学会参加報告	10
News Digest 最近の新聞記事から	19
Meeting Record 学会等開催記録	28
人事異動	35
Congratulations 大学院修了者一覧	38
平成25年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況	46
平成25年度奨学寄附金受入状況	46
寄贈図書一覧	46
編集後記	47



目次

目次

Greetings	ご挨拶	……………	安井 弥	…	2
	「医歯薬保健学研究院長・研究科長の就任にあたって」				
Greetings	ご挨拶 「就任のご挨拶」	……………	津賀 一弘	…	3
My Motto	座右の銘	……………	浦辺 幸夫	…	4
	「時間は誰にも公平である」				
Research Frontline	研究最前線	……………	酒井 規雄	…	5
	「難治性神経疾患の治療法の開発を目指して」				
Research Frontline	研究最前線	……………	加藤 功一	…	6
	「再生医療の普及に欠かせない幹細胞製造及び分析技術」				
Excellent Paper	すぐれた論文	……………	今泉 和則	…	7
	「軟骨形成を司るタンパク質を発見」				
Prize Winner	各賞受賞者リスト	……………			8
Air Mail	広大から海外へ留学している若手の日記	……………	土岐 茂	…	9
	「米国ミシガン大学留学便り」				
Meeting Report	院生の国際学会参加報告	……………			10
News Digest	最近の新聞記事から	……………			19
Meeting Record	学会等開催記録	……………			28
人事異動	……………				35
Congratulations	大学院修了者一覧	……………			38
	平成25年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況				
	平成25年度奨学寄附金受入状況				
	寄贈図書一覧				
	編集後記				
			大瀧 慈	…	47
	表紙写真説明				
					47



医歯薬保健学研究院長・研究科長の就任にあたって

安井 弥 医歯薬保健学研究院長・研究科長

このたび、小林正夫研究院長・研究科長の後任として、広島大学大学院医歯薬保健学研究院長・研究科長を務めることになりました安井 弥です。よろしくお願いいたします。

私の教育・研究の中心は、腫瘍分子病理学であり、診療面では多くのがん症例の病理診断を行っています。わが国のがん研究推進における私の姿勢は、次世代を担うがん研究者の養成、リサーチマインドを持ったがん診療医の育成、社会への情報発信、世界でのプレゼンスの向上とグローバル人材の養成であり、これはそのまま医歯薬保健学研究科に当てはまるものと考えています。

広島大学では、「永続的に学生が成長する大学、国際社会で存在感のある大学」に向けて行動し、「研究大学」として、研究推進体制・環境整備の具体策をもって、さらに、世界標準の教育を発信することにより世界Top100にランクされる「スーパーグローバル大学」を目指しています。昨年11月に文科省が提示した「国立大学改革プラン」では、各大学の特徴や社会的役割を客観的データに基づいて整理し、機能強化を加速する方針であり、そのキーワードは、強み・特色の重点化、グローバル化、イノベーション創出、人材養成機能の強化です。浅原利正学長は、本年、広島大学の機能強化策として、教員組織と教育組織の分離、役員会での教員配置決定を含むガバナンスの強化、英語で教育するリベラルアーツ型新学部の設置、年棒制の導入などを内容とする「広島大学改革構想」を示されました。

教員数が全学の1/4を占め、教育・研究の組織分離と医歯薬保健学が融合する本研究院・研究科の使命はきわめて大きいと考えます。「ミッションの再定義」でも明らかのように、運営費交付金の削減、競争的配分が進む中で中四国の雄を自ら誇るだけでは先細りは避けられません。医歯薬保健学の分野横断的教員グループによる教育・研究と、総合大学の長所を活かした異分野融合型研究の推進により、本研究院・研究科が全学を先導する必要があります。

この際に問われるのは、研究力、国際力、教育力です。研究力強化については、URA (University Research Administrator) の優先配置等の環境整備により特色ある重点領域研究を推進する、部門内の協働力を活用して新しい霞共同研究プロジェクトを立案する、教育プログラムの組織力を活用して分野横断・異分野融合型研究を推進することにより、大型外部資金の獲得につなげることができます。歯学分野を除いてはグローバル化への対応が遅れており、講義・演習の英語化、留学生サポート体制の充実および・アジア/欧米の大学との連携の強化・増強をはかることにより、国際共同研究の加速、留学生の著しい増加につなげることができます。教育力の強化については、UEA (University Education Administrator) を十分に活用し、Interprofessional educationの実施、部門セミナーや東広島も含めた生命医療科学セミナーを通して、チーム医療実践力、分野をこえた情報交換による学際力が醸成されてきます。今まさに、医歯薬保健学の協働が、広く共同教育、共同研究に展開される時と考えます。

医歯薬保健学という巨大な研究院・研究科は、皆さんの協力がなくては運営できません。学部、病院、原医研との連携を大切にし、その発展に努力する所存です。よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



就任のご挨拶

津賀 一弘 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 歯学分野 先端歯科補綴学 教授

この度、広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門先端歯科補綴学の教授を拝命し、平成26年2月1日付で就任いたしました。紙面をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。

私は、広島生まれの広島育ちで、昭和60年に広島大学歯学部歯学科を卒業後、広島大学大学院歯学研究科歯科補綴（ほてつ）学第一（津留宏道教授）を専攻入学しました。歯科補綴学とは齲蝕（むし歯）や歯周病などの感染症や外傷、腫瘍などで失われた歯および歯周組織を人工物で補い、咀嚼や発音などの機能と審美性を回復するための検査、診断、治療を考究する学問領域です。しかしこれまでは検査、診断の部分が弱く、治療や教育では徒弟制度的な技術偏重の色が濃いとの指摘を受けることが少なくありませんでした。ともかく私はここで補綴歯科臨床を研鑽し、研究では顎の痛みや噛みあわせの異常を訴える顎関節症の患者の治療を通じて「顎機能評価法としての咀嚼筋筋電図新解析システムの開発とその応用に関する研究」のテーマで歯学博士の学位をいただきました。広島記念病院広島合同庁舎診療所歯科医師勤務の後、前任の赤川安正教授のもとで補綴歯科診療および顎関節症や高齢者の口腔機能不全に関する臨床、教育、研究を行ってまいりました。この間、文部省在外研究員として平成7年から平成8年にかけてスウェーデン王国イエテボリ大学歯学部留学し、80歳高齢者の口腔機能と栄養および全身機能の調査研究を行いました。その経験からも口腔機能の検査と診断の充実が急務であると考え、地元企業と協力して国内初となる医療用舌圧測定器（図）を開発しました。本器は清潔かつ簡便に舌機能を定量評価できるものとして現在、国内各地で研究・臨床に用いられています。さらに今後増加の予測される認知症高齢者にも応用可能な口腔機能検査を開発するとともに、低下した口腔機能を回復する訓練療法の開発、口腔機能と全身の健康の関係の解明に取り組んでいます。同様に、赤川教授が進めてこられた歯科インプラント治療の改善や適応拡大に関する研究、新生体材料やICT（情報通信技術）を用いた歯科技工の技術革新も諸先生方のご指導ご助言をさらにいただきながら発展させる所存です。

これまで40年以上にわたり広島大学の皆様にいただいた数多のご高配に衷心より深謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



My Motto

座右の銘

「時間は誰にも公平である」

浦辺 幸夫

医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 保健学分野 スポーツリハビリテーション学 教授



人生3万日のうち、私はちょうど2万日ほどを使いました。あと1万日残されているか、あるいは20年余り生きる時間があるかもしれません。容姿や才能には個人による差があるということは確実です。これは決して皆に公平というわけではありません。しかし、絶対的な時間の長さというのは誰にとっても公平です。相対的な時間はそうでもなく、楽しい時間はあっという間に過ぎ、辛い時間はとても長く、小学校の夏休みの時間はいつまでも続いたし、飛行機でアメリカに行く時は日本を夕方に出発しても西海岸には今朝の比較的早い時間に到着しているし、ふだんの睡眠時間はもっとほしいのに船釣りに行くときは夜もなかなか寝つけずにいます。

「時間は誰にも公平である」ということですが、普段多くの時間を共有している学生たちは私の3倍にあたる60年くらいの時間をもっています。私は、先人から教わりつつ自分が蓄えたものを次の世代に引き継ぐため、3倍速くたくさん話してしまいます。しかし、情報が多くなりすぎて本意が伝わらず、結果として逆効果になります。トーマス・カーライルの「沈黙は金なり、雄弁は銀なり」のごとく、本当は大切な言葉だけを選んで語りたいのですが。長い時間がある彼達は、出し惜しみをするかのように、燃え尽きないようにゆったりとした時間の消費を望むようです。病気や事故で図らずも予定されていた時間が使えなくなる人もいます。これは「非情」とか「無念」というほかありません。そう考えると生を受けて時間を普通に使えていることが、このうえなく愛おしいことに思えてきます。昭和30年代から続いた高度経済成長では、身を粉にして「努力」をすれば皆が等しく「幸せ」を享受できる可能性がありました。今は世界に市場の拡大を望むことは困難で、勝者の陰にかならず不幸な敗者があらわれることになります。努力すれば報われるという一般的な解はなくなったのですが、だからこそ時間を大切にして、先人の努力を無駄にしないようにする必要がありますと思うのです。

3月11日、東日本大震災からちょうど3年となる福島県に、放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムの業務の一環として滞在していました。折しも東京オリンピック関連の好況感と対比するように、未曾有の惨事が風化して忘れられていくというのが3年が経過した福島の人たちの共通の認識です。誰がみても「復興は進んでいない」のが現実です。もともと高齢化と過疎化が進んでいた漁村や農村地帯の時間を、さらに10年分以上一気に加速させた大震災です。復興とは何年後に、どのような状態に戻すことを目指すのか、そんなことを考えていました。同じ日の新聞に、女子高校生のスマートフォンの使用時間が1日平均6.4時間という記事がありました。

私は「膝前十字靭帯（ACL）損傷の予防」を主要な研究テーマにしてきました。手術後にスポーツに復帰するまでに、十分な理学療法を行っても半年以上の時間が必要です。それならけがをしないためにはどうしたらよいかと、10分間という比較的短時間で実施可能な「ACL損傷予防プログラム」を開発したのが2005年です。「10年間でこの損傷を半減させたい」とスポーツ現場でこれを実施してきました。現在、ACL損傷が減ったというエビデンスはまだ少なく、10年はおろか、何とか私の使える時間内に解決の糸口をみつきたいと願っています。

「年賀状のつきあい」という言葉があります。つきあいの少ない人との儀礼的なやりとりを批判しているのかもしれませんが。私の年齢になると、年賀状の交流のなかで1/3かあるいは1/2の方々には一生の間にもうお会いする機会がないように思われます。ですから、年賀状のつきあいも実は大切だと思いつつ、年末には1,200枚くらい時間をかけて書いています。

壁におつかって仕事が進まない時には、知の巨人として知られる南方熊楠の書籍を開きます。時間を惜しんで思うまま勉強を続けたこの博学の人の偉業にいつも勇気づけられます。せめて真似をしようと始めた3年日記でしたが、もう11冊目です。これからも時間を大切にして人生を充実させたいと思っています。「時間は誰にも公平である」これがMy mottoです。



難治性神経疾患の治療法の開発を目指して

酒井 規雄 医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 医学分野 神経薬理学 教授

神経薬理学研究室では、難治性の神経疾患の病態を探り、新たな治療法の糸口を見出すことを目標にして以下のような研究プロジェクトを行っています。テーマは多岐に渡っていますが、臨床応用につながるシードを見つけることが薬理学研究の使命であると考え、あえてテーマを絞らず、各テーマ間の有機的連携を期待して研究を進めています。

1. プロテインキナーゼC (PKC) が関与する神経変性疾患に関する研究

PKCの γ 分子種 (γ PKC) は、中枢神経特異的な分子種で、海馬、小脳プルキンエ細胞などに多く発現しています。最近、 γ PKCが神経変性疾患の発症に関わっていることが解ってきました。

γ PKCの点変異が脊髄小脳失調症14型 (SCA14) の発症原因となる。

脊髄小脳失調症 (SCA) は小脳プルキンエ細胞の神経細胞死を特徴とする遺伝性の神経変性疾患で、その14型の原因遺伝子が γ PKCであることが明らかとなりました。我々は、SCA14で見つかった遺伝子変異を導入した γ PKC-GFPを細胞に発現させると、細胞内で凝集体を形成し (図1)、細胞死を引き起こすことを明らかにしました (J. Biol. Chem. 280: 29096-29106, 2005、Neurobiol. Dis. 33: 260-273, 2009)。さらに、SCA14の細胞モデルにおいて、SCA14で見つかった変異 γ PKCの凝集体形成を指標に、二糖類のトレハロースが変異 γ PKCの凝集体形成と神経細胞死を抑制することを見出しました (J Biol. Chem. 285 : 33252-33264, 2010)。

γ PKCのノックアウト動物はパーキンソン病候群を引き起こす。

γ PKCの発現が見られないAS/AGUラットや γ PKCノックアウトマウスでは、線条体のドパミン遊離が減少し、パーキンソン病症状を呈します。我々は、 γ PKCノックアウトマウスでリン酸化が低下しているPKCの基質を同定し、パーキンソン病発症との関連を解析しています (J. Neurosci. in press)。

2. 神経修復のキープレイヤー、ミクログリアに関する研究

脳内免疫を担うミクログリアは神経傷害的にも保護的にも働きます。ミクログリアをLPSで刺激すると一部の細胞は長期生存し、活発に死細胞を貪食することを明らかにしました (J. Neurochem. 116: 1138-1147, 2011)。この細胞は神経保護的なミクログリアの特徴を有するので、その性質の解析と臨床応用を考えています。

3. 恒常的活性化Gタンパク質共役型受容体GPR3、GPR6、GPR12の解析と虚血性脳疾患治療への応用

GPR3は恒常的にGタンパク質を活性化し、細胞内cAMPを上昇させる受容体です。GPR3は神経突起の伸長を促し、神経細胞の生存を高めることを明らかにしました (J Biol Chem, 282: 10506-10515, 2007、PLoS One: 15 e5922, 2009、Neurobiol. Dis. in press)。さらに、これらの受容体の性質を活用して虚血性脳疾患の神経再生に応用できないかを検討しています。

4. セロトントランスポーター (SERT) の機能調節機構に関する研究

SERTはセロトニンを取り込むことでセロトニン神経系の終了を担う膜タンパク質で、抗うつ薬のターゲットです。SERTの機能調節機構を主に膜輸送の面から解析し、新たな精神疾患の治療薬開発の糸口がないかを検討しています。最近、ケミカルシャペロンがSERTの膜輸送を促進しSERTの取り込み活性を上昇させることを見出しました (J. Pharmacol. Sci. 122 :71-83, 2013)。

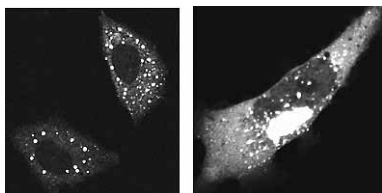


図1. SCA14患者で見つかった変異 γ PKCにGFPを融合しCHO細胞に発現させたところ変異 γ PKCは細胞質にドット状に (左) あるいは核近くに塊状になって凝集した (右)。



再生医療の普及に欠かせない幹細胞製造及び分析技術

加藤 功一 医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 歯学分野 生体材料学 教授

再生医療は、21世紀の新しい治療技術として注目されています。1990年代初頭に始まった組織工学やその後の幹細胞生物学の急速な発展によって、現在では様々な疾患を対象とする再生治療が世界各国で盛んに試みられています。ヒトiPS細胞由来色素上皮細胞を用いた加齢黄斑変性の治療に関して、世界初の臨床研究が、最近、本邦において承認されたのは皆様もご存じの通りです。時代は着実に前進しています。

ところで、このような再生医療を一般の医療として普及させるには、治療技術だけではなく、移植に適した細胞を大量に供給するシステムの構築や移植細胞の品質検査法の標準化など、まだ多くの工学的課題を解決しなくてはなりません。

バイオエンジニアリングを専門とする私たちの研究グループでは、とくに口腔顎顔面における再生医療の実現化に興味をもち、上記の課題を解決するための研究を推進しています。

第一の課題は、幹細胞を大量に増やすための培養技術の確立です。安全性を確保しながら、高純度で、つねに一定の品質をもつ幹細胞を大量に製造することが求められます。私たちはこれまでに、細胞培養基材表面の化学的性質を厳密に制御したり、細胞増殖因子を基材表面に化学固定することによって、ヒト由来の間葉系幹細胞や神経前駆細胞の大量製造に適した培養基材が提供できることを報告してきました(図1、図2)。

次に取り組んでいるのが、移植細胞の品質検査を効率よく行うための方法の提案です。細胞の品質には、生物学的安全性に関わる問題と、製造プロセスの再現性に関わる問題があります。私たちは、とくに後者に関する技術開発に興味をもちています。細胞集団の特性化に最も有効な方法は、細胞表面マーカーの発現パターンを調べることでしょう。そこで私たちは、微小なチップ上に多種類の抗体を搭載した抗体アレイを設計しました。これを用いることによって、従来のフローサイトメトリー法に比べて格段に高いスループットで細胞集団の特性解析を行うことができます。

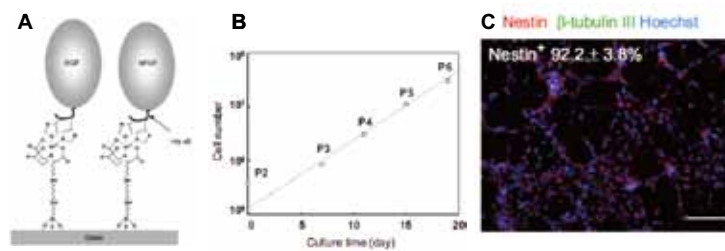


図1. 高純度のヒト神経前駆細胞を製造するための培養基材表面の分子デザイン。(A) 上皮増殖因子 (EGF) および塩基性繊維芽細胞増殖因子 (bFGF) を末端のHis-tagを利用してガラス製培養基材表面に固定化。(B) EGF/bFGF固定化基材上でのヒト神経前駆細胞の増幅。継代数の増加とともに細胞数(継代ごとの細胞数の増加率から計算)が直線的に増大。(C) 7継代後の細胞には、神経前駆細胞マーカー(ネスチン)を発現する細胞が高い割合(92.2±3.8%)で含まれる。スケールバー: 100 μm (Konagaya et al. *Biomaterials* 34: 6008, 2013)



図2. EGF/bFGF固定基材上で培養したヒト神経前駆細胞は6回の継代後も多能性を維持しており、適切な条件で培養すると(A)神経、(B)アストロサイト、(C)オリゴデンドロサイトに分化することができる。スケールバー: 100 μm (Konagaya et al. *Biomaterials* 34: 6008, 2013)

すぐれた論文



軟骨形成を司るタンパク質を発見

今泉 和則 医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 医学分野 分子細胞情報学 教授

当研究室の齋藤敦助教が中心となって実施した研究が、米国の学術雑誌 *Molecular Cell* に掲載されましたので、その研究成果についてご紹介致します。

論文タイトル：Chondrocyte Proliferation Regulated by Secreted Luminal Domain of ER Stress Transducer BBF2H7/CREB3L2. *Molecular Cell* 53 : 127-139, 2014

著者：A. Saito, S. Kanemoto, Y. Zhang, R. Asada, K. Hino, K. Imaizumi

手や足の骨は、胎児期において骨になる場所に一旦軟骨ができ、その部分を骨に置き換えることで作られていきます。この仕組みは軟骨内骨化と呼ばれ、胎児の発生の段階で精密にコントロールされています。軟骨内骨化の仕組みは様々なタンパク質が重要な役割を果たしていることが以前から予想されていましたが、詳細な分子機構は良くわかっていませんでした。

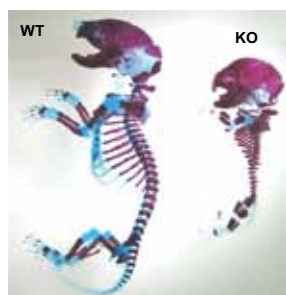
本論文において、軟骨の成長を促すタンパク質を発見し、軟骨が出来上がる仕組みを解明しました。軟骨形成の鍵を握るのは、BBF2H7と呼ばれる細胞内の小胞体に局在する1回膜貫通型の転写因子です。BBF2H7がなくなったマウスでは体のあらゆる部位で軟骨形成が極端に悪くなることがわかりました(図)。BBF2H7は小胞体ストレス*と呼ばれるストレスに応答して膜内で切断され、2つのフラグメント(N末端、C末端)に分かれます。BBF2H7のC末端部分は軟骨細胞の中から細胞の外に放出され、それが周辺の軟骨細胞を増殖させます。一方、N末端部分は転写因子として働き、軟骨成分の産生に不可欠な遺伝子群の転写を誘導します。この2つの異なった軟骨細胞内での制御機構を同時に作動させることで、BBF2H7は軟骨を成長させ骨に置き換える軟骨内骨化の主役として働くことが解明できました。

軟骨が障害される病気で患者数が最も多いのは変形性関節症です。関節軟骨が磨り減るため関節が変形し、激しい痛みを伴います。加齢とともに発症しやすく日本だけでも700万人以上が罹患していますが、根本治療法がありません。

BBF2H7は細胞外に放出されて軟骨細胞を増殖させる能力があるため、ダメージを受けた関節軟骨の表面に投与するだけで関節軟骨を再生できる可能性があります。大人の関節軟骨におけるBBF2H7の働きをさらに詳細に解析を進め、変形性関節症の根本治療に結びつけていきたいと考えています。関節だけでなくBBF2H7は特定の癌細胞にもたくさん発現し、C末端部分が癌細胞の増殖を促していることもわかってきました。現在、大手製薬メーカーと共同で、BBF2H7のC末端機能を阻害する抗体医薬の開発を進めています。

用語説明

*小胞体ストレス：細胞内外からの様々なストレスにより、小胞体内に不良タンパク質が蓄積する状態のことをいう。アルツハイマー病などの神経変性疾患、糖尿病、心血管系疾患の原因にもなる。



BBF2H7欠損マウス(KO)の骨格染色。
野生型(WT)に比べ軟骨(水色)の形成が著しく悪くなっている。

各賞受賞者リスト

各種表彰等の受賞について 平成25年10月1日～平成26年3月31日

賞の名称	受賞者			受賞理由	授与者	授与年月日
	専攻等	講座等	氏名			
第24回近畿・中国・四国口腔衛生学会総会優秀ポスター賞	歯学部	口腔健康科学科4年	松浦 志織	卒業研究にて「歯学科・口腔健康科学科学生を対象とした合同実習のテキストマイニングを活用した分析」に取り組み、その成果の一部を学会にて発表した。全てのポスター演題の中から、投票による厳正な審査の結果、「優秀ポスター賞」に推挙されたため。	第24回近畿・中国・四国口腔衛生学会総会大会長	平成25年10月6日
日本臨床検査自動化学会平成25年度優秀論文賞	病院	診療支援部(副部門長)	松原 朱實	検体検査の内部精度管理の手法とISO/IEC17025不確かさの推定を呼吸機能検査に応用したオリジナリティーおよび日本呼吸器学会のガイドラインに準じた内部精度管理法の有用性を評価されたため。	一般社団法人日本臨床検査自動化学会理事長	平成25年10月11日
膜シンポジウム2013学生賞	医歯薬保健学研究科薬科学専攻	医療薬剤学(博士課程前期1年)	平林 悠	「生体膜輸送研究のための新たな輸送反応停止液の探索・開発」平林 悠、今岡大明、永井純也、湯元良子、高野幹久(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 医療薬剤学研究室)上記発表が優秀な発表と評価されたため。	日本膜学会会長	平成25年11月8日
第61回日本ウイルス学会学術集会ポスター賞	医歯薬保健学研究科基礎生命科学部門	ウイルス学(特任助教)	小田 康祐	ウイルス蛋白質による自然免疫阻害について、構造生物学的に分子機構を解明した研究内容が優れていること、さらに研究成果が判りやすく提示されている事から複数の選考委員に優秀と認められたため。	第61回日本ウイルス学会学術集会会長	平成25年11月10日
第64回日本電気泳動学会奨励賞	医歯薬保健学研究科薬科学専攻	医薬分子機能科学(博士課程前期2年)	芝 見生	口頭発表演題「ヒスチジン、アスパラギン酸のタンパク質リン酸化解析におけるチオリン酸基供与体(ATP- γ S)利用の有用性の検討」の内容が特に優秀であると認められたため。	日本電気泳動学会会長	平成25年11月16日
平成25年度医学教育等関係業務功労者表彰	病院	診療支援部(歯科技工部門部門長)	大倉 啓孝	医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労があったため。	文部科学大臣	平成25年11月21日
平成25年度医学教育等関係業務功労者表彰	病院	看護部(副看護師長)	友田 恭之	医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあったため。	文部科学大臣	平成25年11月21日
労働行政関係功労者表彰	医歯薬保健学研究科応用生命科学部門	精神機能制御科学(教授)	岡村 仁	広島労働局地方労災医員として永年にわたり労働行政の推進に貢献し、その功績は顕著なものがあるため。	広島労働局長	平成25年11月23日
日本口腔組織培養学会学会賞	理事・副学長	(社会産学連携・広報・情報担当)	岡本 哲治	永年にわたり口腔組織培養研究に尽力し、その功績が顕著であるため。	日本口腔組織培養学会会長	平成25年11月24日
	医歯薬保健学研究科応用生命科学部門	分子口腔医学・顎顔面外科学(教授)				
日本化学療法学会西日本支部支部長賞-基礎部門-	医歯薬保健学研究科基礎生命科学部門	細菌学(助教)	鹿山 鎮男	第61回日本化学療法学会西日本支部総会における発表演題「日本において初めて分離されたblaTMB-1保有Acinetobacter baumanniiの性状解析」が優れた研究業績と認められたため。	日本化学療法学会西日本支部支部長	平成25年11月29日
日本化学療法学会西日本支部支部長賞-臨床部門-	医歯薬学総合研究科創生医科学専攻	細菌学(博士課程4年)	桑原 隆一	第61回日本化学療法学会西日本支部総会における発表演題「広島県におけるESBL産生菌サーベイランス(第4期調査)」が優れた研究業績と認められたため。	日本化学療法学会西日本支部支部長	平成25年11月29日
日本化学療法学会西日本支部活性化委員会特別賞-基礎部門-	医歯薬保健学研究科歯科学専攻	細菌学(修士課程2年)	木場 由美子	第61回日本化学療法学会西日本支部総会における発表演題「日本において初めて分離されたblaOXA-181保有Klebsiella pneumoniaeの性状解析」が優れた研究業績と認められたため。	日本化学療法学会西日本支部活性化委員会委員長	平成25年11月29日
日本生物工学会西日本支部学生賞	医歯薬保健学研究科薬科学専攻	遺伝子制御科学(博士課程後期2年)	宇田 成利	D-サイクロセリン合成酵素の構造生物学的研究と学会発表内容が生物工学分野の進歩に大いに貢献したものと評価されたため。	日本生物工学会西日本支部支部長	平成25年12月10日

広大から海外へ留学している若手の日記

米国ミシガン大学留学便り

土岐 茂 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 医学分野 精神神経医科学 特任助教（当時）

私は現在、アナーバー市にあるミシガン大学精神科のリバーゾン研究室に留学しています。アナーバー市は人口10万人の自然豊かな街で、治安も良く、高齢者に人気があります。北部の湖に囲まれ、今年は大寒波の影響で、強風の際に-30度の体感温度を経験しました。ミシガン大学は最古の州立大学で、研究環境に恵まれています。私自身、毎朝、無料バスで、インド人や中国人、アフリカ系米国人と研究室に通勤し、夜遅く帰ります。

リバーゾン先生はユダヤ系米国人で、心的外傷後ストレス性障害の分子生物学と生理学の研究を長く続けています。一方、親日家で、禅や武道に造詣が深い方です。私自身は神経経済学的観点からの、東洋と西洋の比較文化研究に加えて頂きました。米国は不況が続き、外貨と労働力確保のため、ビザ要件を大幅に緩和しています。中国や韓国の社会への浸透が進み、比較文化研究の追い風となっているようです。台湾人の同僚は優しいクリスチャンで、研究のみでなく、歴史や文化について話し合います。ただ、リバーゾン先生との個別面接は毎週厳しいもので、同僚も緊張している様子が伝わります。その他、週1回夜、精神療法の症例検討に参加しています。異なる社会に住みながら、症例に共通点多々あることに驚いています。

米国の第一印象は自由と民主主義、資本主義の国だということです。批判精神を重んじ、研究室での議論は活発です。また、移民を広く受け入れ、人種や文化、宗教、政治的信条に多様性があります。一方、理想と現実の落差が激しく、変化に富む複雑な社会であると感じます。現在もAffordable Care ActやLesbian、Gay、Bisexual、Transgenderに関連した法整備に大きくゆれています。

こうした知見を日本に帰り、少しでも生かすことができれば幸いです。最後になりましたが、このような留学の機会を与えて頂き、山脇成人教授ならびに関係者の皆様方に感謝いたしております。



院生の国際学会参加報告



2013 American College of Rheumatology Annual Meeting(サンディエゴ)に参加して

茂久田 翔 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻 免疫学研究室

2013年10月25日から30日まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴで開催された2013 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meetingに参加し、ポスター形式での発表を行いました。ACRは世界中のリウマチ・膠原病に関わる医師・研究者が一同に会する学会です。海外での発表は初めてでしたが、サンディエゴの気候は温暖で、快適に滞在することができました。

私の発表は、関節リウマチでの関節破壊の予後予測因子として報告されているサバイピン（がん抗原の一種）という蛋白の、関節滑膜・血清での発現確認及びその機能解析の報告でした。大学院に入学した2012年から始めたばかりの、まだまだ中途半端な内容のポスターではありましたが、会場では何人かの研究者から興味をもっていただき、彼らと英語でのディスカッションを行うことができました。その中には、以前より関節組織とがん抗原について研究されていた権威ある先生方も含まれており、彼らからも数々の叱咤激励をいただくことができました。ACRへの参加は、今後の研究のモチベーションを得ることができ、大変有意義でしたが、同時に自身の語学力の低さも痛感することとなりました。

最後になりましたが、海外での発表という機会を与えていただきましたことを、心より御礼申し上げます。



UEGW 2013 (ベルリン) に参加して

実綿 倫宏 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻
消化器・代謝内科学研究室

2013年10月14日から16日まで、ドイツのベルリンで開催されました第21回欧州消化器病週間（UEGW 2013）に参加させていただきました。発表内容は表在食道癌内視鏡治療における使用デバイスの選択に関する検討で、ポスター発表でしたが、大変貴重な経験となりました。消化管の内視鏡治療は現在も日本が世界をリードしている状況であり、特にヨーロッパではまだまだ発展途上の段階であります。その

ため、欧米の医師達は食い入るようにポスターを見ておられ、厳しい質問もいただきました。英語での返答に窮する場面もありましたが、海外医師の向上心の高さに多に刺激を受けて参りました。

また、多くの日本人医師が、司会、新人医師の指導などのセッションで活躍しておられ、日本がこの分野をリードしていることを実感しました。

夜のベルリンでは治安の悪さを感じる一幕もありましたが、食事も美味しく、風光明媚であり、今後の研究を続けて行く上で多くのエネルギーをいただいた学会参加となりました。今回の経験を生かして今後も内視鏡診療、研究に精進していきたいと思えます。最後になりましたが、このような発表の機会を与えていただきました消化器代謝内科の茶山一彰教授、内視鏡診療科の田中信治教授、直接のご指導をいただきました内視鏡診療科の岡志郎先生に心より御礼申し上げます。

院生の国際学会参加報告

12th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology Head and Neck Surgery(タイペイ)に参加して

久保田 和法 医歯薬保健学研究科 博士課程2年 医歯薬学専攻
耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学研究室

はじめまして、耳鼻咽喉科頭頸部外科学研究室所属の久保田和法と申します。今回私は2013年12月5日から7日にかけて台北で行われた12th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology Head and Neck Surgeryに参加し、近年耳鼻咽喉科の中でトピックになっている好酸球性副鼻腔炎について口演する機会に恵まれました。研究室からは他に竹野准教授が口演を1題、またポスター発表を当時耳鼻科で研究をしていた医学部4年生の吉村晴香さんが行いました。12月の台北は日本で言う10月くらいの気候で過ごしやすく、学会中も晴天が続き、日本各地から台北に来た日本人耳鼻科医は台北での学会を十分に楽しむことができました。学会は耳、鼻、咽喉頭すべての領域において基礎医学から臨床医学まで幅広く演題がそろっていました。双方とも英語を母国語としていませんが、演題後の質疑応答では活発な議論が交わされていました。私の演題にもフロアからの質問がありました。初めての国際学会参加でしたが、なんとか相手の質問を理解し、答えることができました。英語だけの真剣なコミュニケーションは非常に刺激的だったことを覚えています。学会の空き時間にすこし観光もしましたが、ところ変われば人変わり、文化、考え方も違います。同じ分野を仕事の間としていてもそうです。相違は時に違和感になりますが見方を変えると自分の視野が広がるきっかけになります。今後も国内だけでなく国際的に研究活動をしたと考えました。

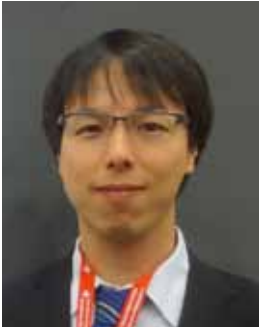


Anesthesiology2013 (サンフランシスコ) に参加して

三好 寛二 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻 麻酔蘇生学研究室

2013年10月12日から16日にかけて行われたAnesthesiology2013に参加しました。開催地はサンフランシスコのモスコニーセンターでした。発表した演題は、「マランパチ分類クラスゼロの発生頻度およびマランパチ分類と気管挿管困難の関連性について」で、発表形式はポスター・ディスカッションでした。マランパチ分類とは、気管挿管の困難度を予測するために麻酔科の領域で用いられているスコアシステムです。セッションは8演題90分で、まず部屋に設置された8つのディスプレイにそれぞれのポスターが掲示され、最初の30分は各自でラウンドしてそのポスターを見て、残りの60分は全員席に座り演者が3分のプレゼンテーションと2～3分の質疑応答がありました。質疑応答は、座長がまずマランパチクラス分類にクラスゼロがあることを初めて知ったと述べ、何年くらい調査しているのかと、これからも続けるのかと聞かれました。最後にマランパチクラスゼロは気管挿管困難と関連することがあるのかと聞かれました。発生的な内容の質問を想定していましたが、少し拍子抜けでしたが、英語の聞き取りが難しく、話しかけられる度に聞き返していました。私は海外での学会発表は初めての経験だったので、演題の登録から採択時のやり取りなどで分からないことが多く苦労しましたが、大変よい経験になりました。また機会を作ってこのような発表を行いたいと思います。

院生の国際学会参加報告



American Heart Association Scientific Sessions 2013(ダラス)に参加して

梶川 正人 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 循環器内科学研究室

2013年11月16日から20日までアメリカ合衆国テキサス州ダラスで開催された American Heart Association Scientific Sessions 2013に参加しました。今回、私は“Rho-associated Kinase Activity and Cardiovascular Disease Prediction”という演題でポスター発表を行いました。Rho-associated kinaseは多くの細胞機能に関わっている蛋白で、動脈硬化の発症・維持・伸展に関与しています。本研究はRho-associated kinaseの活性が、その後の心血管イベント発症と関与していることを示しました。多くの参加者たちから、質問やアイデア、意見をいただくことができました。私の研究テーマのひとつである血管内皮機能についても、最新の検査機器が展示されていました。上腕の駆血による指先の体温変化で血管内皮機能を評価する検査器を発見し、実際に使用することもでき、多くの収穫がありました。

この学会では多くの基礎研究の発表がありました。現在進行中の動物実験の手法について、他の研究者達とどのように実験を進めているのか議論し、参考文献の情報も得ることができました。実際にやっている方からの失敗談を含めたアドバイスはとても参考になりました。この経験は、今後私が研究活動を行っていくうえで非常に有意義なものとなりました。このような機会を与えてくださった諸先生方、大学院生海外発表支援の関係者の皆様に感謝いたします。



AHA Scientific Sessions 2013 (ダラス) に参加して

渡邊 義和 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 循環器内科学研究室

今年度、私は2013年11月16日から20日までアメリカ合衆国テキサス州ダラスで開催された American Heart Association (AHA) Scientific Sessions 2013に参加してきました。ダラスはアメリカ南部の中心となる商業都市であり、会場となった Convention centerも企業ビルが立ち並ぶダウンタウンの中心部に位置していました。学会内容は循環器学全般に渡る基礎研究・臨床研究の報告が主で、世界中の研究者・医療関係者が自身の最新の研究成果について発表し活発に議論を交わしていました。

今回、私は“Left atrial mechanical and substrate abnormality assessed by three-dimensional speckle-tracking echocardiography and electroanatomical mapping system in patients with paroxysmal atrial fibrillation”のタイトルでポスター発表を行いました。これはこれまで主に左室壁運動を定量的に評価するために用いられていた3Dストレインエコーを左房に応用し、左房の電気生理学的特性・左房拡大の程度と比較検討する内容で、心房細動患者における左房の電氣的リモデリングから構造的リモデリングへの進展様式を一部明らかにするものです。

日本人のみならず各国の研究者から、3Dストレインを左房に応用する事への妥当性や心房細動患者で左房壁運動異常が出現するメカニズムに関してなど様々な質問があり、今後の研究の方向性を決める上で参考となる意見をたくさん聞くことができました。

今回の海外発表を通して今後も研究を進めていくモチベーションを高めることができ、非常によい経験でした。

院生の国際学会参加報告



American Heart Association Scientific Sessions 2013(ダラス)に参加して

松本 武史 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 循環器内科学研究室

この度、American Heart Association Scientific Sessions 2013 (AHA 2013) にポスター発表ではありますが参加する事ができましたので報告致します。

今回のAHAはテキサス州ダラスでの開催でした。人口500万人とテキサス州の中でも有数の都市で、我々にとりましては1963年のケネディー大統領暗殺事件が思い浮かぶ都市でもあります。このダラスにおきまして11月16日から20日までの開催期間5日間で105の国から18,000人以上に参加があったようです。

その人数が収容できる会場のコンベンションセンターは比較的中心地にあったように思いますが、非常に広大であり土地の広いアメリカならではの造りのように思われました。また、学会開催期間にはダラスの街のいたる場所におきまして、学会バッグを持った集団を見かけており、参加人数の多さを実感いたしました。

私自身は Peripheral Augmentation Index is an Index of not only Arterial Stiffness but also Endothelial Function という演題でのポスター発表でしたが、木原康樹教授も激励に来て下さり、何とか乗り切る事ができました。学会の印象としましては、日本人が非常に多かったように思います。一部情報では米国に次いで日本からの参加が多く、会場の第2外国語は日本語であったとの話もあります。その中、私は、ゆっくり見る事ができるポスター会場を中心に参加しました。

多くの基礎研究、臨床研究の内容を見る事ができましたが、中でも自分の実験分野での発表者と話す事ができ、またその方がポスター質疑終了時間後に時間をとって下さり、方法などアドバイスを頂けた事が自分にとって幸運でした。

ハードルは高いですが、また来年も演題を通し、参加したいと思っております。



第63回アメリカ人類遺伝学会2013 (ボストン)に参加して

八木 亮一 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻 歯周病態学研究室(当時)
病院口腔維持修復歯科 歯科診療医

このたび、2013年10月22日から26日にかけてアメリカのボストンで開催された American Society of Human Genetics 2013に参加させていただきました。学会が開催されたボストンコンベンション&エキシビジョンセンターは大変大規模な会場であり、そのポスターセッションにおいて、“Detecting novel mutation of Alzheimer’s disease gene using semiconductor sequencing” という演題で発表させていただきました。近年登場した次世代シーケンサーによって遺伝子スクリーニングは大きく進歩しました。本研究では、次世代シーケンサーである Ion Personal Genome Machine (IonPGM) を用いて疾患関連遺伝子の系統的な検索法を検討する中で、アルツハイマー病の疾患関連遺伝子のスクリーニングを行うことによって、新規変異を発見することができたためその報告をさせていただきました。会場では主に IonPGM の手技や、シーケンスを行って得られたデータの内容についての質問があり、様々な研究機関で遺伝子スクリーニングが盛んに行われていることを実感しました。また会場では講演のほかにも多数のゲノムスクリーニング関連の企業展示も催されており、新しい技術が次々と導入されるこの分野の発展のスピードが目立ちました。

今回が自分にとって初めての国際学会で不安な気持ちもありましたが、多くの先生方にお世話になり大変貴重な経験を得ることができました。最後になりますが、このような機会を与えてくださった先生方、またご支援いただきました広島大学大学院医歯薬保健学研究室には深く感謝いたします。



The 53rd General Session of Korean Academy of Periodontology(ソウル)に参加して

吉本 哲也 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻 歯周病態学研究室

今回、私は2013年11月23日、24日にかけて韓国のソウルで開催されたThe 53rd General Session of Korean Academy of Periodontologyに参加させて頂きました。初めての海外での学会ということ、英語での発表ということで出発前から緊張していたのを今でも覚えています。また日本からの演題発表は私たち広島大学5名を含め、合計で7名と少なく、勝手ながら広島大学また日本の代表として気持ちが引き締まると同時に責任感やプレッシャーに押しつぶされそうでした。私の演題は“*Aggregatibacter actinomycetemcomitans*-outer membrane protein 29 (*Aa*-Omp29)は歯肉上皮細胞においてTGF- β type I receptor/smad2/caspase3 signaling を介してアポトーシスを誘導する”という演題で発表させて頂きました。発表については緊張しましたが練習通りできたと思います。しかし質疑応答に関しては自分の英語力のなさを痛感しました。聞くことはできても表現することが出来ないもどかしさは日頃の研究の研鑽とともに、英語力の向上が必須であることを強く感じました。学会期間中に韓国の大学院生たちと交流する機会があったのですが、みなとても英語が流暢でした。日本にいと英語の重要性はそんなに強く自覚することはないのですが、今回の学会参加で英語力の向上についてより高い意識を持たたのは一番の収穫だったかなと思います。今回の海外発表を通して、自信を持たった点、また未熟である点が浮き彫りになったと感じました。これは海外という環境でしか分からないことであつたと思います。この経験を活かして、これからも機会があれば海外での発表を積極的にしたいと思います。



第53回韓国歯周病学会学術大会 (ソウル) に参加して

山川 真宏 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻 歯周病態学研究室

今回僕は2013年11月23、24日にかけてソウル市で開催された、The 53rd General Session of Korean Academy of Periodontologyに参加してきました。「Experimental analysis of the expression of rheumatoid arthritis affected *Porphyromonas gingivalis* infection」というタイトルで、ポスターでの発表でした。我々は今、歯周炎における*Porphyromonas gingivalis* (*Pg*) 感染が、関節リウマチを増悪、誘導しているのではないかという仮説のもと、関節リウマチモデルマウスを用いて、動物実験を中心に様々な角度から*Pg*感染との関連を検討しています。この学会では審査の先生方の前で内容を端的に説明する時間もありました。英語で説明する練習もたくさんしたのですが、実際に発表してみるとなかなか思うように発表できませんでした。しかし今回の学会参加を通じて、海外の人とコミュニケーションすることの難しさ、たどたどしい英語でもなんとかかわかってもらった時の喜び、また海外の研究者の新鮮な意見を聞いた時の感動を味わうことができ、これからの自分にとって非常に有意義なものとなりました。また11月25日に仁川(インチョン)市内のワンガン大学歯学部で、セミナーをさせていただきました。歯周病研究をしている先生方や基礎系の先生方、また学部の学生を前に自分の研究内容を10分程度で紹介するというものでしたが、そこでもたくさんの質問を頂くことができました。今回の学会発表を通じて、国際社会の中で自分がこれから学ぶべきものや今自分がしていることに対して、客観的に考えるきっかけが持てたことに深く感謝いたします。

院生の国際学会参加報告



9th INC 2013 & 3rd WANS (ソウル) に参加して

原田 浩二 保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻 成人看護開発学研究室

私は2013年10月16から18日にかけてソウルで開催されたThe 9th International Nursing Conference 2013 & 3rd World Academy of Nursing Scienceに参加し、Evaluation of the effects of reduction of alcohol consumption intake on sobriety program for drinkers of who exceeded alcohol consumption limit in Japanという題目で博士課程後期から取り組んでいる研究をポスター発表しました。

WHOは有害な飲酒は精神神経疾患、心血管疾患、肝硬変、がんなどの重大な危険因子であり、回避が可能にも関わらず、世界中で年間に約250万人がアルコール関連の原因により死亡したと報告しています。日本において飲酒は社会交流の場や生活習慣に密着しており、適正量を超えた長期の飲酒が生活習慣病をはじめとする健康被害を引き起こしています。WHOを中心にBrief Interventionと呼ばれるプライマリ・ケア医が簡便に使用できる方法が開発されていますが、長期効果は観察されておらず、日本において普及はしていません。そこで、認知行動療法等を盛り込んだ新たな節酒プログラムを開発し、産業保健の領域においてその効果を検証し、その成果を発表しました。

本国際学会では、アジアを中心に約10カ国の看護師たちが参加していましたが、韓国は安価に高濃度のアルコール飲料が入手しやすいことから、生活保護受給者やホームレスの人も飲酒によって生活や経済の自律を困難にしている状況があり、今回の発表は飲酒問題対策に有意義であるという意見交換ができました。この度は海外の飲酒問題について意見交換ができ、貴重な経験をすることができました。



3rd World Academy of Nursing Science(ソウル)に参加して

竹下 八重 医歯薬保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻 成人看護開発学研究室

我が国では世界でも類を見ないほど高齢化が進行しているため、高齢者の健康づくりや介護予防など様々な取り組みがなされています。そのような背景があり、私は地域で慢性疾患重症化のリスクが高い高齢者を抽出するスクリーニングシステムを開発し、広島市のK団地で518世帯を対象にそのシステムを使用して調査を行い、その結果を韓国で2013年10月18日に開催された3rd World Academy of Nursing Scienceで発表しました。この学会では、各国の医療事情に沿った研究や戦略の発表がされており、その場に参加させて頂いたことはそれぞれの国の理解や状況にあった実践を知る上で非常に意義のあることでした。また、国際的な場でのプレゼンテーションを実際に経験することで、どのようにすれば自国について明確に、そして印象的に発表することができるのかということを改めて考えることができたように思います。この度の経験は今後私が研究活動を行っていく上で、非常に有意義なものとなりました。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。



3rd World Academy of Nursing Science(ソウル)に参加して

水川 真理子 医歯薬保健学研究科 博士課程後期1年 保健学専攻
成人看護開発学研究室

平成25年10月18日に韓国ソウルで開催された3rd World Academy of Nursing Scienceで2演題発表してまいりました。1題目は、ポスターで「慢性心不全患者における遠隔モニタリングシステムを用いた疾病管理プログラムによる急性増悪・再入院予防研究（Pilot Study）中間報告」として、プロトコールとベースラインの解析結果について発表しました。また、2題目は口頭で「広島県心不全地域連携サ

ポート体制構築事業における高度実践看護師の役割」について、疾病管理体制づくり、多職種間の調整、スタッフ教育など、医療の質の向上のために高度実践看護師として担っている役割について発表しました。

ポスター発表での「遠隔モニタリングを用いた疾病管理研究」では、韓国の大学生より「同じような研究をしているので、とても興味がある。」と質問を頂きました。遠隔モニタリング研究は、日本を含むアジアではまだ少ない研究であり、国際学会で発表することで海外の研究者と交流し、互いに直接、意見交換ができる貴重な機会となりました。今回、初めて国際学会に参加し、翻訳作業には努力が必要でありましたが、日本の歴史や文化の中で開発、実践した内容が、他国の研究者にとっても有益となり得ることが分かり、大変ではありましたが、今後も国際学会への参加を続けていく動機づけとなりました。この度は、大学の支援を受け、このような機会を頂きましたこと心より感謝申し上げます。



24th Annual ART & SCIENCE of Health Promotion Conference(コロラドスプリングス)に参加して

吹田 晋 医歯薬保健学研究科 博士課程後期1年 保健学専攻
地域・学校看護開発学研究室

2014年3月26日から28日にかけてアメリカのコロラドスプリングスで開催された24th Annual ART & SCIENCE of Health Promotion Conferenceに参加し、ポスター発表をさせていただきました。初めての国際学会への参加・ポスター発表であり緊張や不安もありましたが、参加してみると毎日が驚きと学びの連続で、大変有意義な学会参加をすることができました。私は「Trial of a group activity using

origami for adolescent emotional disorders」というタイトルでポスター発表をしました。ポスター発表では、参加者と積極的なディスカッションをするよう心がけました。ディスカッションのなかで参加者から、アメリカにおいては健康課題が顕在化した後の個別支援が中心であるが、今回発表した取り組みは、集団を対象とした予防的意義を含んだ活動であり、生徒が楽しみながら活動に参加できる点に肯定的な意見をいただきました。英語力の不足や各国制度の違いについての理解不足などがあり、深い話し合いに発展させることが難しかったことは今後の課題です。英語力の向上や各国制度に関する知識の向上に取り組みたいと思います。

最後になりましたが、このような発表の機会を与えてくださいました川崎裕美教授、そして、大学院生海外発表支援関係者の皆様に御礼申し上げます。

院生の国際学会参加報告



Health Promotion Conference(コロラドスプリングス)に参加して

山下 琴美 医歯薬保健学研究科 博士課程前期2年 保健学専攻
地域・学校看護開発学研究室

2014年3月26日から28日にかけてアメリカのColorado Springsで開催された、Health Promotion Conferenceに参加させていただきました。日本の農業従事者を対象に、農閑期（冬期）前後の身体状況についての介入研究をポスター形式で発表しました。今回初めての国際学会への参加、ポスター発表でしたが、活発な議論が交わされる学会の雰囲気と、過ごしやすい周囲の環境、私の発表に笑顔で対応してくださる方々のおかげで、有意義な時間となりました。

言語はもちろん、文化や価値観、制度の異なる方々に対して、日本の現状をどのように表現すれば伝わるのだろうか、というのがポスター作成段階からの大きなテーマでした。今回、強く実感したのは、ふだん「あたりまえ」のように感じていることでも、国や背景が異なると状況が全く変わり、外から見ると「あたりまえ」ではなくなる、ということでした。国際学会に参加して、世界を視野に入れ、日本や対象地域の特色を表現することの重要性を改めて考えました。

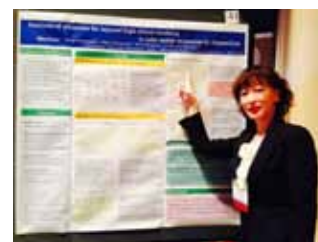
また、海外ならではのユーモアを含んだ発言や白熱したディスカッション、ビジネスの視点など、わたしにとって多くの刺激と発見がありました。今後もこれらの経験を生かし、広い視野を持てるようにしたいです。今回、このような貴重な機会を与えてくださり、ご支援くださりまして、深く感謝しております。川崎先生をはじめ、研究室の皆様への日頃の感謝をここに表し、今後の原動力としたいと思います。ありがとうございました。



The Art & Science of Health Promotion Conference 2014(コロラドスプリングス)に参加して

湯淺 美香 医歯薬保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻
地域・学校看護開発学研究室

今回、平成26年（2014年）3月26日から28日にかけてアメリカ合衆国コロラド州コロラドスプリングスで開催されたAmerican Journal of Health Promotion主催によるThe Art & Science of Health Promotion Conference 2014に参加し、ポスターセッションにて報告をしました。ポスターのタイトルは“Analysis of incidence type of injured Japanese high school students and how to improve environments”で、2日間にわたって貼りだし、各日1時間半の間、世界各国の保健や医療に関する研究者や実務家などに対して研究の内容、結果を説明しました。今回は、高校生を対象とし、学校保健室に来室した生徒と怪我、受傷部位、事故発生場所に関する報告をしましたが、学校保健室や養護教諭というものが日本独自の制度であることから、その説明から開始することになりました。そして、医師や看護師ではなく、養護教諭が学校に勤務している点や児童生徒以外に教職員の養護を司る職務であることを説明し、どういった対応が可能であるのかなどの質問を受けました。今回、海外で開催される学会に参加することで、国内学会では得られない新たな研究上の視点を得ることができました。今後も海外の研究者たちと意見交換ができる国際学会に参加できるよう、研究を進めていきたいと思っています。最後に、このような海外発表の機会を与えてくださった川崎裕美教授、川崎研究室の皆様、ならびに海外発表支援をいただいた医歯薬保健学研究科に感謝致します。





23rd Annual Meeting of the International Association for Dance Medicine and Science(シアトル)に参加して

藤井 絵里 医歯薬保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻
スポーツリハビリテーション学研究室

この度、10月17日から19日にかけてシアトル（アメリカ）で開催された23rd Annual Meeting of the International Association for Dance Medicine and Scienceに参加し、「Relationship between Functional Movement Screen scores and physical assessments in dance students and non-dance students」という演題でポスター発表をさせていただきました。本学会は、ダンサーの健康やパフォーマンスの向上を目指し、医学および科学の双方から教育を考えていくことを理念としています。医師や理学療法士などの医療従事者から、科学者、ダンス指導者、ダンサーまで、幅広い職種の方が参加されます。研究発表のみにとどまらず、トレーニングやコンディショニングに関する実技のセッションが豊富にあることも特色で、職種を超えて活発な討論がなされています。

この学会への参加は4回目、発表は3回目となりました。多くの方がポスターに目をとめて下さり質問をいただきましたが、英語で自分自身の考えを伝えきることは非常に難しく、積極的な意志がもっと必要であると感じました。ダンサーに必要な身体能力が他のスポーツと一致しないこともあり、パフォーマンスを客観的に評価する最適なツールが少ないため、本研究に興味を持っていただけたいです。

私が研究のテーマとしている、ダンサーが少ない力で美しくコントロールされた運動を遂行するメカニズムについてさらに知見を深めることができるよう、今回の学会で得たものを大切にしたいと思います。

このような機会をいただくにあたり、ご支援いただいた諸先生方、本学関係者の皆様に御礼申し上げます。



World Psychiatric Association International Congress 2013(ウィーン)に参加して

大西 久美子 医歯薬保健学研究科 博士課程後期2年 保健学専攻
老年・地域作業機能制御科学研究室

私は昨年10月にオーストリアのウィーンで開催されたWorld Psychiatric Association International Congressに参加し、「Usefulness of Reminiscence for Patient with Schizophrenia Utilizing Day Care or Day-night Care」という演題でポスター発表を行いました。この学会では精神医療に関連する幅広い内容が発表され、精神分野一つをとっても、多職種が多様な面からアプローチすることで対象者を援助することを可能にしているのだと改めて認識することができました。また母国語ではない言語に訳す中で、あいまいに表現していたことをもう一度考え直したり、外国の文化に触れることで自国の文化を見直したりといったことも、有益なことでした。

私は医療現場で、当事者の自尊感情の低さを改善できないかと感じたことをきっかけに大学院へ進学し、回想法を研究しています。課題はまだ多くありますが、研究に参加して下さった方々からも好意的な感想を頂くことができましたので、よりよい形で現場に還元することができるように、今後も研究を続けていきたいと思っています。

今回の海外発表の機会を得ることができたのは、岡村先生、花岡先生の両教授をはじめとする先生方、大学関係者の方々のおかげであると、深く感謝致します。

最近の新聞記事から

- I A E Aに広大生派遣
今月から 被曝者医療推進協（医学部）
（毎日 10 / 4）
- 病院の実力 広島編69
炎症性腸疾患
ストレスも悪化要因（病院）
（読売 10 / 6）
- 白い歯笑顔フォト募集
広島大病院（病院）
（中国 10 / 10）
- 6日の入市被爆マンガンが主因
青壮年期男性 高いがん死亡リスク
広島大原医研・大谷助教ら 短い「半減期」から解析（原医研）
（中国 10 / 12）
- あきらめない18歳自伝
脳腫瘍・大腸がん・白血病…小5から闘病
心が折れそうな人に希望を
呉の山下貴大さん（病院）
（朝日 10 / 19）
- 放射線のなぜ 中高生に講義
科学的な知識補う場に 広島大の原医研（原医研）
（中国 10 / 21）
- 投下当日の入市被爆男性
がん死亡 高リスク
原医研発表（原医研）
（朝日 10 / 23）
- 放射線がん治療の拠点 二葉の里で施設起工式（病院）
（朝日 10 / 26）
- 憲法改正問題 有識者に聞く
改憲派 広島大大学院教授 秀 道広氏（56）
平和のため「軍隊」必要（医歯薬保）
（中国 10 / 27）
- 腎移植普及へ課題探る
中区でフォーラム（医歯薬保）
（中国 10 / 28）
- てんかん発作 治療・ケア紹介
10日中区・23日福山（病院）
（中国 10 / 30）
- アスベスト対処法学ぶ
中区で16日（医歯薬保）
（中国 10 / 30）

最近の新聞記事から

- あきらめない心の中で生きる
三つのがんと闘った山下貴大さん逝く
広島市立の全小中高などに著書（病院）（朝日 10 / 31）
- 見える喜怒哀楽
広島大・マツダなど、脳波測る装置開発へ
いじめ発見や顧客分析想定（医歯薬保）（中国 11 / 1）
- 病院と組み遺伝子診断
広大発ベンチャー 予防診療に活用（医歯薬保）（日本経済 11 / 7）
- がんの薬物療法 医療関係者報告
南区で来年1月（病院）（中国 11 / 8）
- 変形性ひざ関節症 専門医インタビュー
広島大学大学院整形外科教授 越智光夫先生
ひざの痛み早めに受診を
ひざの軟骨がすり減る病気
運動で筋肉強化（医歯薬保）（中国 11 / 13）
- ピロリ除菌 積極的に
広島大学病院 伊藤公訓・診療准教授に聞く
保険適用拡大後も急増せず
胃がんリスク確実に低減「50代以下特に効果」（病院）（中国 11 / 13）
- 新薬の治験しやすく
特定疾患患者を相互紹介
県、広島の4病院と協力（病院）（読売 11 / 15）
- 医薬品臨床試験
基幹4病院で相互紹介
県が仲介役 事業の試験運用開始（病院）（毎日 11 / 15）
- 患者集め治験促進
広島県・4病院 全国初の連携（病院）（中国 11 / 15）
- 血液や臓器 放影研保管の80万点
被爆者試料 どう活用 30日講座（原医研）（中国 11 / 16）
- 広島大病院周辺あふれ出す車列
構内工事で収容数減
駐車料金有料化へ（病院）（中国 11 / 18）

最近の新聞記事から

- 「ハイブリッド」複数手術同時に
広島大病院公開
患者の負担軽減に期待 (病院) (中国 11 / 23)
- てんかん治療に新展望
福山で専門医が講演 (病院) (中国 11 / 23)
- 広島大病院が専門外来
海外渡航者の感染症予防
輸入ワクチンや内服薬処方 (病院) (中国 11 / 28)
- 院長に安井教授
広島大大学院医歯薬保健学研究院 (医歯薬保) (中国 11 / 29)
- ハイブリッド手術室 導入
広大病院 患者の負担減期待 (病院) (朝日 11 / 30)
- 感染性胃腸炎 広島県でも警報
広島大病院大毛宏喜教授に聞く
しっかり手洗いノロ予防
せっけん使い小まめに
幼児や高齢者注意 11～2月ピーク (病院) (中国 12 / 1)
- 外反母趾 靴下で症状緩和
リウマチ患者や高齢者にも配慮
広島大大学院・浦辺教授ら改良 (医歯薬保) (中国 12 / 3)
- 広大病院に渡航外来
感染症予防／帰国後の不調診療 (病院) (読売 12 / 6)
- 公的4病院全面禁煙へ 中国地方 (病院) (中国 12 / 6)
- スポーツ障害防ごう
広島大病院の越智教授に聞く
成長期の過剰運動に注意
特定部位に負荷かけない
ストレッチはしっかりと (病院) (中国 12 / 10)
- 脳卒中の治療や再発防止を解説
15日中区 (医歯薬保) (中国 12 / 12)

最近の新聞記事から

- 軟骨増殖の仕組み解明
広島大大学院今泉教授ら 膝関節治療に応用も (医歯薬保) (中国 12 / 13)
- 広大病院で渡航外来
海外の感染症 予防策を (病院) (朝日 12 / 14)
- 小児がん招くPCS症候群
遺伝子間領域に発症要因
原医研松浦教授ら 世界で初証明 (原医研) (中国 12 / 18)
- 広島大病院膵腎移植へ (病院) (中国 12 / 21)
- 広島大病院で手術終了 (病院) (中国 12 / 22)
- それから広島2013 ⑦
新種ウイルス解明途上
マダニ広島でも男性の死亡判明 (病院) (朝日 12 / 22)
- 5新人の体力測定
広大病院 投球動作解析も (病院) (中国 1 / 4)
- 海外旅行前に予防接種を
広島大病院 渡航外来の繁本医師に聞く
地域・期間でワクチン選択
1ヵ月前までに来院必要 (病院) (中国 1 / 18)
- 診療待ち時間に病気予防「教室」
外来患者に広島大病院 (病院) (中国 1 / 21)
- 世羅町発 農作業が「楽なの～」体操
広島大と考案、普及目指す (医歯薬保) (中国 1 / 23)
- 高精度放射線治療を解説
広島で来月講座 (医歯薬保) (中国 1 / 23)
- ビタミンで難聴改善
4割で効果 予防も裏付け
「老化の犯人」活性酸素を抑制
広島大病院の工田診療准教授が実証 (病院) (中国 1 / 24)
- 広大病院が出生前検査
ダウン症など3種 来月2日から受け付け (病院) (読売 1 / 25)

最近の新聞記事から

- 来月から新出生前診断
 広島大病院 中国地方2施設目（病院） (中国 1 / 25)
- 福島第一原発事故 低線量被曝を共同研究
 広大、ベラルーシ施設と協定（原医研） (日本経済 1 / 28)
- トレーニング方法カープ選手ら紹介
 広島大病院講演会（病院） (中国 1 / 29)
- 完全無血清でiPS培養
 安全面でメリット
 広島大病院の山崎診療医らが開発（病院） (中国 1 / 31)
- iPS 安全性高い培養法
 広島大、動物成分使わず（病院） (日本経済 1 / 31)
- より安全なiPS細胞
 広島大病院の山崎診療医ら 血清使わず作製・維持（病院） (毎日 1 / 31)
- 河内投手 リハビリ生活語る
 左肩手術から復帰まで4年
 広大病院で講演「精神面のサポート重要」（病院） (朝日 1 / 31)
- リスク低減へ清潔維持を
 広島大大学院の坂口教授に予防対策を聞く（医菌薬保） (中国 1 / 31)
- 周辺渋滞緩和 駐車場を新設
 10日から広島大病院（病院） (中国 1 / 31)
- 中国地方でもリケジョ輝く
 iPSや天文 成果続々
 育成へ女性枠採用や学内保育（病院） (中国 2 / 1)
- 病院の実力 広島編⑦
 頭頸部がん
 治療法選択 患者に配慮
 広島大病院 上田勉助教に聞く（病院） (読売 2 / 3)
- 新出生前診断を開始
 広島大病院 HPに概要掲載（病院） (中国 2 / 4)

最近の新聞記事から

- 医学部長に木原氏
広島大（医学部）（中国 2 / 7）
- 広島大人事（6日）
医学部長 木原康樹教授（58）＝新任
歯学部長 菅井基行教授（54）＝再任
薬学部長 杉山政則教授（63）＝同
いずれも任期は4月1日から2年間（医学部・歯学部・薬学部）（読売 2 / 7）
- 広島大人事（4月1日付）
医学部長・木原康樹教授（58）＝循環器内科学
歯学部長・菅井基行教授（54）＝細菌学、再任
薬学部長・杉山政則教授（63）＝遺伝子制御科学、再任（医学部・歯学部・薬学部）（朝日 2 / 7）
- 学問の厳しさ！？ 追試の120人全員不合格
広島大医学部（医学部）（中国 2 / 8）
- 中国レポート
広島県が整備中の高精度放射線治療センター（仮称）
「持続可能な医療」挑む
高度装置・情報共有…進む連携
得意分野、相互に受け入れ
広島県内 高齢化、患者数増大見込み（病院）（日本経済 2 / 11）
- 自殺未遂 半数過去にも
広島県が調査 再発防止マニュアル（病院）（中国 2 / 11）
- 歩行訓練支援装置を小型化
脳卒中まひの改善期待
広島大大学院 弓削教授ら（医歯薬保）（中国 2 / 12）
- 広島市出身医学者 遺品のびょうぶ修復
富士川游 多彩な交友関係
著名人からの書簡貼り合わせ（医学部）（中国 2 / 12）
- 放射線研究などで広島大と協定
市民レベル 交流意欲
ベラルーシ大使、市役所訪問（原医研）（中国 2 / 13）
- 「繰り返し自殺」半数
広大病院調査 相談できる場必要（病院）（朝日 2 / 15）

最近の新聞記事から

- 被爆者高齢化 みとりが課題
医療・援護研究会（原医研）（中国 2 / 17）
- 放射線治療センター来年開業
がん医療の最前線紹介
県と広島大 公開講座（医歯薬保）（中国 2 / 17）
- 原爆ドーム破片展示
広大医学資料館（医学部）（朝日 2 / 18）
- 大学院生・嘉陽さん収集の8点
原爆ドームの破片展示 広島大（医学部）（中国 2 / 18）
- てんかん窓口一本化
広島大病院、センター開設（病院）（中国 2 / 20）
- がん患者支援や緩和ケア考える
1日講演会（病院）（中国 2 / 27）
- 広島大で17例目脳死移植（病院）（中国 2 / 27）
- 前立腺がん外来開設
4日に広大病院（病院）（読売 2 / 28）
- 病院の実力*広島編④
食道がん
早期発見へ内視鏡検査を
広島大原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 檜原淳・診療准教授に聞く（原医研）（読売 3 / 2）
- 「研究室退去迫られ苦痛」
広島大准教授2人が提訴
教授は反論「居座られ被害」（原医研）（読売 3 / 3）
- 准教授2人が教授ら提訴
広大研究室の使用巡り（原医研）（朝日 3 / 4）
- 「嫌がらせで研究滞る」
原医研准教授2人が提訴（原医研）（中国 3 / 4）
- 骨や筋肉などに分化
幹細胞「無重力」で培養
広島大など装置開発 安全で効率的（医歯薬保）（中国 3 / 5）

最近の新聞記事から

- フクシマとヒロシマ 3年上
変わるニーズ
医療指導者育成が急務
ベテラン不足の南相馬市立病院
広島大病院、研修受け入れ (病院) (中国 3 / 6)
- 96歳に人工血管治療
広島大病院 大動脈瘤で成功 (病院) (中国 3 / 7)
- 花粉症治療 増える選択肢
副作用少ない薬 登場 / 免疫療法 根治も期待
広島大病院竹野准教授に聞く (病院) (中国 3 / 7)
- 福島事故の医療 英語の専門書に
広島大病院教授ら出版 (病院) (中国 3 / 12)
- 被曝患者受け入れ学ぶ
呉 中国労災病院で訓練 (病院) (中国 3 / 15)
- 前立腺がん外来開設
広島大病院 県内中核病院で初 (病院) (朝日 3 / 15)
- 「手術ミスで死亡」
女兒両親、広島大を提訴 (病院) (中国 3 / 19)
- 自殺未遂者見守り
退院後連絡や地域機関と連携
広島大病院が介入事業 (病院) (中国 3 / 23)
- すくすくサロン 歯磨き嫌がる2歳の娘
「褒めて楽しめます」基本に
専門家から 広島大大学院小児歯科学教授 香西克之さん (広島市南区) (医歯薬保) (中国 3 / 25)
- 地域医療担う「卵」激励
広島県 3大学の医学部22人 (医学部) (中国 3 / 26)
- 広大生 プロバスケ選手
地元ドラゴンフライズ入り
薬剤師試験合格 両立目指す (薬学部) (読売 3 / 28)

最近の新聞記事から

NBL広島入り会見

岡崎「子どもの手本に」

広島大在学 薬学部と両立（薬学部）

（中国 3 / 28）

地域医療 21人が抱負

入学予定者、知事に面会（医学部）

（朝日 3 / 29）

広島の放射線治療センター

県など共同運営協定（病院）

（中国 3 / 29）

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 10月10日(木)	第266回広島眼科症例検討会	広島大学医学部内 広仁会館	症例検討・供覧 1. 硝子体手術に人工角膜を用いた1例 益田 俊 先生 (広島大学) 2. 前頭筋吊り上げ術後ゴアテックスシート® が露出した1例 板倉 秀記 先生 (広島大学) 3. 11年後に再度の瞳孔形成術を行った麻痺性 散瞳の1例 二井 宏紀 先生 (JA広島総合病院) 4. YAG後囊切開術を2回行った液状後発白 内障の1例 湯浅 勇生 先生 (中電病院) 5. 機能的視覚障害児にみた片眼乳頭腫脹 木村 徹 先生 (木村眼科内科) 特別講演 「IgG4関連眼疾患とその周辺疾患」 安積 淳 先生 (神戸海星病院 部長、アイセンター長)	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 視覚病態学 木内良明教授
平成25年 10月17日(木)	第142回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「TAK1シグナル伝達経路の制御機構とその生体 における役割の研究」 講師：稲垣 舞子 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所) 「分子標的治療による白血病治療の可能性」 講師：今川 潤 先生 (広島大学病院)	原爆放射線医学研究所事 務室
平成25年 10月24日(木) ～26日(土)	第23回日本臨床精神神経 薬理学会・第43回日本神 経精神薬理学会合同年会	沖縄コンベンショ ンセンター	特別講演 「Oxidative and immune biomarkers as targets for novel therapies」 Michael Berk 先生 (Deakin University) 「Stress and cognition: A critical role for the prefrontal cortex」 Anthony G. Phillips 先生 (CINP President) 「DSM 5 and RDOC conceptual consideration and implication on diagnosis and treatment of Anxiety Disorders」 Joseph Zohar 先生 (ECNP President) 市民公開講座 「心のメンテナンスと脳内物質」 小池 龍之介 先生 (月読寺/正現寺) 一般演題 104題 ポスター発表 241題	第43回日本神経精神薬理学 会事務局 医歯薬保健学研究院 仲田義啓教授
平成25年 10月29日(火)	第18回分子細胞情報学セ ミナー	総合研究棟7F 共同セミナー室	「Bリンパ球の選択・分化とUPR」 講師：鏑田 武志 先生 (東京医科歯科大学難治疾患研究所免疫疾 患分野 教授)	医歯薬保健学研究院 分子細胞情報学
平成25年 11月3日(土)	第20回日本麻酔・医事法 制研究会	金沢市音楽堂	教育講演 「個人情報と電子化された医療情報の活用」 武田 裕 先生 (滋慶医療科学大学院大学 学長) 特別講演 「医療と個人情報保護」 宇賀 克也 先生 (東京大学大学院法学政治学研究科) ほか一般演題	医歯薬保健学研究院 麻酔蘇生学
平成25年 11月7日(木)	第143回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「iPS細胞技術を用いたがん抗原特異的T細胞の再 生」 講師：河本 宏 先生 (京都大学再生医学研究所)	原爆放射線医学研究所事 務室

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 11月10日(日)	第3回日本外傷歯学会西 日本地方会大会	広仁会館 大会議室	<p>大会長講演 「小児の口腔外傷からみえてくるもの」 香西 克之 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院小児 歯科学 教授)</p> <p>特別講演 「法医学における歯科医師の役割」 長尾 正崇 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院法医 学 教授)</p> <p>シンポジウム：テーマ 「臨床専門領域の連携と情報共有」 尾崎 正雄 先生 (福岡歯科大学成育小児歯科学 教授) 三宅 実 先生 (香川大学医学部歯科口腔外科学講座 准 教授) 安部倉 仁 先生 (広島大学病院咬合・義歯診療科 講師)</p>	医歯薬保健学研究院 小児歯科学 香西克之教授
平成25年 11月16日(木)	健康・省エネシンポジ ウムIN広島	広島大学歯学部 第一講義室	<p>基調講演1 「CASBEE」と地域材・財を活用した日本1の 広島型健康省エネ住宅による地域活性化の可 能性について」 講師：伊香賀 俊治 先生 (慶應義塾大学理工学部システムデザ イン工学科 教授)</p> <p>基調講演2 「広島県における日本に先駆けた住宅と健康の 関係調査とその啓発を行う重要性について」 講師：田邊 剛 先生 (山口大学医学系研究科環境統御健康 医学分野 教授)</p> <p>パネルディスカッション 「医師・歯科医師・建築業界が連携した公衆衛 生とそれに裏付けられた地域材を活用した『ひ ろしま健康・省エネ住宅』による健康長寿日 本1と、広島県の活性化を目指して」 (パネラー) 橋本 公博 先生 (国土交通省住宅局 大臣官房審議官) 末田 泰二郎 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用 生命科学部門外科学教授) 烏帽子田 彰 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院総合 健康科学部門公衆衛生学 教授) 西名 大作 先生 (広島大学大学院工学研究院社会環境空間 部門建築計画学講座教授) 二川 浩樹 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合 健康科学部門口腔生物工学分野 教授)</p> <p>(司会) 上原 裕之 先生 (一般社団法人健康・省エネ住宅を推進す る国民会議 理事長)</p>	<p>主催：(一社)健康・省エ ネ住宅を推進する国民会議</p> <p>共催：広島大学大学院公衆 衛生学研究室、ひろしま健 康・省エネ住宅推進協議会</p> <p>後援：広島県、広島市、廿 日市市、広島県医師会、広 島県歯科医師会、広島県建 築士会</p>
平成25年 11月20日(水) ～22日(金)	第31回メディシナルケミ ストリーシンポジウム	アステールプラザ	<p>次世代を担う研究者による「MCS優秀賞」受賞講 演 5題 招待講演</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Gタンパク質共役型受容体の系統的かつ迅 速な解析に向けて 岩田 想 先生 (京都大学) 2. X線自由電子レーザー SACLA - 創薬研究 への応用 - 石川 哲也 先生 (理化学研究所) 	第31回メディシナルケミ ストリーシンポジウム実行委 員会 医歯薬保健学研究院 太田茂教授

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 11月20日(水) ～22日(金)	第31回メディシナルケミ ストリーシンポジウム	アステールプラザ	<ol style="list-style-type: none"> 3. ベランパネルの創薬研究 花田 敬久 先生 (エーザイ株式会社) 4. アカデミア創薬における理研創薬・医療技 術基盤プログラムの取り組み 橋爪 良信 先生 (理化学研究所) 5. 製薬産業イノベーションとグローバルゼー ション 近藤 裕郷 先生 (塩野義製薬株式会社) 6. 生物活性アルカロイドの合成研究 宍戸 宏造 先生 (徳島大学) 7. スーパーコンピュータを活用した薬設計 藤谷 秀章 先生 (東京大学) 8. Discovery of NESINA (alogliptin), a Highly Selective Dipeptidyl Peptidase IV inhibitor for the Treatment of Type 2 Diabetes Kenneth Goodwill 先生 (Takeda California, Inc.) 9. 有機触媒を用いたプロスタグランジンの3 ポット合成 林 雄二郎 先生 (東北大学) 10. スギ花粉症に対する舌下免疫療法 大久保 公裕 先生 (日本医科大学) 医薬化学部会賞受賞講演 2題	第31回メディシナルケミ ストリーシンポジウム実行委 員会 医歯薬保健学研究院 太田茂教授
平成25年 11月21日(木)	第144回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) の新規治療 薬・トロンボポエチン受容体作動薬についての 最近の話題」 講師：勝谷 慎也 先生 (広島大学病院) 「紡錘体形成チェックポイント解除機構の解析」 講師：堀越 保則 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	原爆放射線医学研究所事 務室
平成25年 11月29日(金) ～30日(土)	第40回日本股関節学会学 術集会	広島国際会議場 広島市文化交流会館	テーマ 「サイエンスに基づいた股関節治療のアート」	医歯薬保健学研究院 人工関節生体材料科学講座 安永裕司教授
平成25年 12月14日(土)	2013年度麻酔科エキス パートセミナー	広島大学霞キャン パス	セミナー 「医学論文を書く時の障壁～克服するためのア ドバイス・TIPS～」 河本 昌志 先生 (広島大学麻酔蘇生学) 「声に出して読む麻酔チャート2013冬」 福田 秀樹 先生 (広島大学病院麻酔科) 佐伯 昇 先生 (広島大学病院手術部) 「麻酔科医のためのiPad活用術」 讃岐 美智義 先生 (広島大学病院麻酔科) ハンズオン 「あきらめない末梢神経ブロック」 新屋 苑恵 先生 (山口県立総合医療センター麻酔科) 森本 康裕 先生 (宇部興産中央病院麻酔科)	医歯薬保健学研究院 麻酔蘇生学
平成25年 12月15日(日)	第10回広島脳卒中市民シ ンポジウム	広島国際会議場	第一部講演 特別講演1 「脳卒中と認知症にならないために」 清原 裕 先生 (九州大学大学院医学研究院環境医学分野 教授)	医歯薬保健学研究院 脳神経内科学 松本昌泰教授

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成25年 12月15日(日)	第10回広島脳卒中市民シンポジウム	広島国際会議場	特別講演2 「脳卒中は治せる、防げる－急性期の治療と再発予防－」 山口 武典 先生 (国立循環器病研究センター名誉総長 日本脳卒中協会理事長) 第二部パネルディスカッション 「備後脳卒中ネットワークの取組み」 大田 泰正 先生 (脳神経センター大田記念病院 理事長) 「呉市のあの手この手」 豊田 章宏 先生 (中国労災病院 リハビリテーション科部長) 「脳卒中予防～広島市の脳卒中専門医から～」 野村 栄一 先生 (広島市民病院 神経内科 部長) 「認知症予防の取組み」 丸山 博文 先生 (広島大学大学院脳神経内科学准教授・日本脳卒中協会広島県支部副支部長)	医歯薬保健学研究院 脳神経内科学 松本昌泰教授
平成25年 12月19日(木)	第145回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「原医研次世代シーケンサーの現況とその解析例」 講師：金井 昭教 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所) 「Wnt5a陽性乳癌の生物学的特徴について」 講師：角舎 学行 先生 (広島大学病院)	原爆放射線医学研究所事務室
平成25年 12月21日(土)	第61回広島病理集談会	広島大学医学部 基礎・社会医学研究棟セミナー室2	7例の手術・生検材料の病理診断に関する検討会	医歯薬保健学研究院 病理学研究室 武島幸男教授
平成26年 1月9日(木)	第267回広島眼科症例検討会	広島大学医学部内 広仁会館	症例検討・供覧 1. インプラント露出後に眼内炎を起こした1例 吉田 知世 先生 (広島大学) 2. シュレム管の向こうは何？ 中村 友美 先生 (広島大学) 3. 巨大な結膜嚢胞の1例 戸田 利絵 先生 (県立広島病院) 4. MRI時に発覚した眼部金属異物の2例 大田 遥 先生 (安佐市民病院) 5. 先天眼振を伴った近視性乱視にi-LASIKを施行した1例 木村 格 先生 (木村眼科内科) 特別講演 「糖尿病黄斑浮腫の病態と治療」 池田 誠宏 先生 (兵庫医科大学眼科 教授)	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 視覚病態学 木内良明教授
平成26年 1月10日(金)	第19回分子細胞情報学セミナー	基礎社会医学棟2F セミナー室2	「小胞体ストレス応答センサーの機能不全により起こる疾患」 講師：河野 憲二 先生 (奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科動物細胞工学研究室教授)	医歯薬保健学研究院 分子細胞情報学
平成26年 1月16日(木)	第146回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「放射線照射環境での線量率依存的な細胞応答とその分子機構の解析」 講師：河合 秀彦 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所) 「複製後修復機構が放射線発がんに及ぼす影響」 講師：笹谷 めぐみ 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	原爆放射線医学研究所事務室
平成26年 1月23日(木)	第147回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「ゼブラフィッシュを用いた発生研究の新展開－背根神経から放射線被ばくの影響へ－」 講師：本庶 仁子 先生 (岡山大学大学院自然科学研究科)	原爆放射線医学研究所事務室

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成26年 1月25日(土)	第60回広島麻酔医学会	広島アンデルセン	特別講演Ⅰ 「手術部の“ハード”と“ソフト”」 安原 洋 先生 (東京大学医学部附属病院手術部長・手術医学 教授) 特別講演Ⅱ 「ここまで来たロボット手術～その現状、課題と将来展望～」 松原 昭郎 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院腎泌尿器科学 教授) ほか、会長指名講演、一般演題	医歯薬保健学研究院 麻酔蘇生学
平成26年 1月31日(金)	第20回難病医療従事者研修会	広仁会館	特別記念講演 「ALS患者の治療とケア～告知から終末期まで～」 荻野 美恵子 先生 (北里大学医学部神経内科学 講師)	CIDC難病対策センター (センター長 松本昌泰教授)
平成26年 2月2日(日)	アトピー性皮膚炎治療研究会 第19回シンポジウム	広仁会館 大会議室	テーマ 「ステロイド治療を総括する」 ワークショップ1 「アトピー性皮膚炎治療におけるガイドラインの役割」 キーノートレクチャー：竹原 和彦 先生 (金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚科学 教授) 特別講演1 「ステロイド薬の作用機序」 平澤 典保 先生 (東北大学大学院薬学研究科生活習慣病治療薬学分野 教授) ワークショップ2 「ステロイド外用薬をどう使うか？」 キーノートレクチャー：片岡 葉子 先生 (大阪府立呼吸器科・アレルギー医療センター皮膚科) ランチョンセミナー 「Atopic dermatitis in China: challenge in diagnosis and treatment」 張 建中 先生 (北京大学人民医院皮膚科 教授) 特別講演2 「アトピー性皮膚炎と汗アレルギー」 平郡 隆明 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院皮膚科学) ワークショップ3 「アトピー性皮膚炎の長期予後」 キーノートレクチャー：片桐 一元 先生 (獨協医科大学越谷病院皮膚科 教授) 一般演題 5題	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 皮膚科学
平成26年 2月5日(水)	第148回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「ヒトiPS細胞を用いた低線量放射線影響の研究」 講師：遠藤 充浩 先生 (理化学研究所統合生命医科学研究センター)	原爆放射線医科学研究所 事務局
平成26年 2月20日(木)	第149回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「原爆被爆直後から5年間における死亡危険度の解明」 講師：大谷 敬子 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所) 「クロマチンリモデリング制御を介したGemininによるE2Fの転写活性の制御」 講師：大野 芳典 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	原爆放射線医科学研究所 事務局

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成26年 2月22日(土)	第18回中皮腫パネル	順天堂大学医学部	9題の中皮腫症例の臨床・病理学検討会	医歯薬保健学研究院 病理学研究室 武島幸男教授 (後援:労働者健康福祉機構)
平成26年 3月4日(火)	第6回プロバイオティクス国際シンポジウム	広島国際会議場 大会議室	「プロバイオティクスによる予防医学・未病医学への貢献」 1. <i>Aspergillus oryzae</i> S-03 produces inhibitors to gingipain as a virulence factor of <i>Porphyromonas gingivalis</i> Narandalai Danshiitsoodol 先生、 杉山 政則 先生 (広島大学) 2. <i>Porphyromonas gingivalis</i> , a small Dracula, is controlling your life! 栗原 英見 先生 (広島大学) 3. Functionality of Japanese rice wine, Sake 秦 洋二 先生 (月桂冠総合研究所) 4. 454 pyrosequencing analysis of fecal samples from nursing home residents treated with <i>Lactobacillus brevis</i> KB290 井上 拓郎 先生、菅沼 大行 先生、 矢嶋 信浩 先生 (カゴメ株式会社総合研究所) 5. Lactic acid bacteria convert human fibroblasts to multipotential cells 太田 訓正 先生 (熊本大学) 6. Development of evidence-based probiotic strains Geun Eog Ji 先生 (Seoul National University) 7. Probiotic activity of <i>Lactobacillus plantarum</i> PNU from kimchi and anticancer effect of kimchi prepared with <i>Lab. plantarum</i> PNU Kun-Young Park 先生 (Pusan National University) 8. <i>Lactobacillus paracasei</i> subsp. <i>paracasei</i> NTU 101-From research to market Tzu-Ming Pan 先生 (National Taiwan University)	医歯薬保健学研究院 薬学分野 杉山政則教授
平成26年 3月13日(木)	第268回広島眼科症例検討会	広島大学医学部内 広仁会館	症例検討・供覧 1. あとから Sherwood Slit 徳毛 花菜 先生 (広島大学) 2. 発達緑内障に対するバルベルトインプラント手術 小林 賢 先生 (広島大学) 3. 非定型的な眼底所見を呈した原田病の1例 中崎 徳子 先生、河原 純一 先生 (吉島病院) 4. 有水晶体眼内レンズICL 杉本 栄一郎 先生 (すぎもと眼科) 5. 落ちたCTRの取り出し方… 広田 篤 先生 (広田眼科) 6. Focal choroidal excavationにCNVが生じた1例 武田 哲郎 先生、木村 徹 先生 (木村眼科内科) 特別講演 「加齢黄斑変性の予防と治療～エビデンスに則したサプリメントと抗VEGF剤の使い方～」 尾花 明 先生 (聖隷浜松病院眼科部長)	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 視覚病態学 木内良明教授

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成26年 3月20日(木)	第150回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「多発性骨髄腫治療の考え方と課題」 講師：黒田 芳明 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所) 「2群の差の統計的推測～観測時点などで変化する差を評価する」 講師：佐藤 健一 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	原爆放射線医科学研究所事務室

人事異動

人事異動 平成25年10月2日～平成26年4月1日

発令 月日	異動 内容	氏名	異動前所属	異動前 職名	異動後所属・部門等	異動後 職名
10.31	退職	岩本 和真	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
10.31	退職	徳本 憲昭	病院	助教		
11.1	採用	廣瀬 尚人			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（歯科矯正学）	助教
11.1	採用	杉原 清香			原爆放射線医学研究所附属被ばく資料調査解析部	助教
11.1	採用	鈴木 崇久			病院消化器診療科	助教
11.1	採用	稲川 嵩紘			医療政策室緊急被ばく医療推進センター	特任助教
12.1	昇任	宮本 達雄	原爆放射線医学研究所	助教	原爆放射線医学研究所ゲノム障害医学研究センター	講師
12.31	退職	望月 英毅	病院	講師		
12.31	退職	横山 知子	病院	助教		
12.31	退職	小林 加直	病院	助教		
12.31	退職	世羅 康彦	病院	助教		
12.31	退職	坂下 知久	病院周産母子センター	助教		
1.1	採用	杉本 洋輔			大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門（視覚病態学）	特任助教
1.1	採用	Nguyen Thi Phuong Thao			大学院医歯薬保健学研究院	特任助教
1.1	採用	横山 知子			病院感覚器・頭頸部診療科	講師
1.1	採用	竹中 丈二			病院感覚器・頭頸部診療科	助教
1.1	採用	占部 智			病院周産母子センター	助教
1.15	採用	田邊 優子			病院高度救命救急センター	助教
2.1	昇任	津賀 一弘	大学院医歯薬保健学研究院	准教授	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門（先端歯科補綴学）	教授
2.1	昇任	光畑 智恵子	大学院医歯薬保健学研究院	助教	大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門（小児歯科学）	准教授
3.31	定年退職	山勝 裕久	大学院医歯薬保健学研究院	教授		
3.31	退職	信藤 肇	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
3.31	退職	永井 純也	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
3.31	退職	永井 眞由美	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
3.31	退職	石川 暢久	大学院医歯薬保健学研究院	講師		
3.31	退職	大原 慎也	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	白石 弘章	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	首藤 毅	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	犬伏 俊博	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	北山 友也	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	林 和彦	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	福井 康人	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	藤田 正	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	水町 亘	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	宮本 泰成	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	山下 明子	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	那須 佳津美	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	錦織 良	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	利島 保	大学院医歯薬保健学研究院	特任教授		
3.31	退職	安永 裕司	大学院医歯薬保健学研究院	寄附講座教授		
3.31	退職	Ketut Suardita	大学院医歯薬保健学研究院	特任准教授		
3.31	退職	加門 正義	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	藤田 洋輔	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	永原 隆吉	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	西村 瑠美	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	峯 裕一	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	奥田 勝博	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	郭 瑩	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	井上 由子	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	半司 香里	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	川見 昌史	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	大平 真裕	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	兵頭 英出夫	原爆放射線医学研究所	准教授		
3.31	退職	長町 安希子	原爆放射線医学研究所	特任助教		
3.31	退職	時 林	原爆放射線医学研究所	特任助教		
3.31	退職	福本 拓治	病院	講師		
3.31	退職	小倉 薫	病院周産母子センター	講師		
3.31	退職	立川 隆治	病院	助教		

人事異動

発令 月日	異動 内容	氏名	異動前所属	異動前 職名	異動後所属・部門等	異動後名 職
3.31	退職	亀井 豪器	病院	助教		
3.31	退職	串畑 重行	病院	助教		
3.31	退職	鈴木 崇久	病院	助教		
3.31	退職	埜本 純哉	病院	助教		
3.31	退職	中西 修平	病院	助教		
3.31	退職	中村 吏江	病院	助教		
3.31	退職	安氏 正和	病院	助教		
3.31	退職	横山 敬生	病院	助教		
3.31	退職	田中 良治	病院	助教		
3.31	退職	平田 涼子	病院	助教		
3.31	退職	板井 純治	病院高度救命救急センター	助教		
3.31	退職	大下 慎一郎	病院集中治療部	助教		
3.31	退職	粟屋 智一	病院臨床研究部	助教		
4.1	配置換	Hayes Clair Nelson	大学院医歯薬保健学研究院	特任講師	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (消化器・代謝内科学)	特任准教授
4.1	配置換	岡田 剛	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (精神神経医科学)	特任講師
4.1	配置換	岡 広子	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教	大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門 (国際歯科医学連携開発学)	特任講師
4.1	配置換	Nguyen Thi Phuong Thao	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教	大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門 (国際歯科医学連携開発学)	特任助教
4.1	配置換	松本 知也	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (精神神経医科学)	研究員(URA)
4.1	昇任	田中 友加	大学院医歯薬保健学研究院	助教	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (消化器・移植外科)	准教授
4.1	昇任	湯元 良子	大学院医歯薬保健学研究院	助教	大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (医療薬理学)	講師
4.1	昇任	平郡 隆明	病院	講師	大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門 (皮膚科学)	准教授
4.1	昇任	藤高 一慶	病院	助教	大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (分子内科学)	講師
4.1	採用	大林 真理子			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (口腔顎顔面病理病態学)	助教
4.1	採用	小島 俊逸			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (歯科矯正学)	助教
4.1	採用	小西 有希子			大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門 (小児歯科学)	助教
4.1	採用	川見 昌史			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (医療薬理学)	助手
4.1	採用	坂本 和夫			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (精神神経医科学)	特任教授
4.1	採用	脇谷 滋之			大学院医歯薬保健学研究院人工関節・生体材料学講座 (寄附)	寄附講座教授
4.1	採用	Dion Clingwall			大学院医歯薬保健学研究院 (リーディングプログラム)	特任准教授
4.1	採用	浦岡 直礼			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (分子病理学)	特任助教
4.1	採用	大野 晴也			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (分子内科学)	特任助教
4.1	採用	高井 知子			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (分子細胞情報学)	特任助教
4.1	採用	松久 幸司			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (分子細胞情報学)	特任助教
4.1	採用	渡谷 祐介			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (外科学)	特任助教
4.1	採用	杉本 由紀			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (生体分子機能学)	特任助教
4.1	採用	青木 彩子			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (医療薬理学)	特任助教
4.1	採用	鍵浦 文子			大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 (老年・がん看護開発学)	特任助教
4.1	採用	錦織 良			大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門 (生体材料科学)	特任助教
4.1	併任終了	小林 正夫	大学院医歯薬保健学研究院	研究院長		
4.1	併任終了	小林 正夫	大学院医歯薬保健学研究科	研究科長		
4.1	併任終了	小林 正夫	大学院医歯薬学総合研究科	研究科長		
4.1	併任終了	吉栖 正生	医学部	学部長		
4.1	併任終了	松原 昭郎	医学部	副学部長		
4.1	併任終了	高野 幹久	大学院医歯薬保健学研究院	副研究院長		
4.1	併任終了	高野 幹久	大学院医歯薬保健学研究科	副研究科長		
4.1	併任終了	梯 正之	大学院医歯薬保健学研究院	副研究院長		
4.1	併任終了	梯 正之	大学院医歯薬保健学研究科	副研究科長		
4.1	併任終了	梯 正之	大学院保健学研究科	研究科長		
4.1	併任終了	谷川 攻一	病院	副病院長		
4.1	併任開始	安井 弥			大学院医歯薬保健学研究院	研究院長
4.1	併任開始	安井 弥			大学院医歯薬保健学研究科	研究科長
4.1	併任開始	安井 弥			大学院医歯薬学総合研究科	研究科長
4.1	併任開始	秀 道広			大学院医歯薬保健学研究院	副研究院長
4.1	併任開始	秀 道広			大学院医歯薬保健学研究科	副研究科長
4.1	併任開始	加藤 功一			大学院医歯薬保健学研究院	副研究院長
4.1	併任開始	加藤 功一			大学院医歯薬保健学研究科	副研究科長
4.1	併任開始	太田 茂			大学院医歯薬保健学研究院	副研究院長
4.1	併任開始	太田 茂			大学院医歯薬保健学研究科	副研究科長
4.1	併任開始	太田 茂			薬学部	副学部長

人事異動

発令 月日	異動 内容	氏名	異動前所属	異動前 職名	異動後所属・部門等	異動後 名職
4.1	併任開始	片岡 健			大学院医歯薬保健学研究院	副研究院長
4.1	併任開始	片岡 健			大学院医歯薬保健学研究科	副研究科長
4.1	併任開始	片岡 健			教育研究評議会	評議員
4.1	併任開始	片岡 健			大学院保健学研究科	研究科長
4.1	併任開始	木原 康樹			医学部	学部長
4.1	併任開始	河本 昌志			医学部	副学部長
4.1	併任開始	菅井 基行			歯学部	学部長
4.1	併任開始	二川 浩樹			歯学部	副学部長
4.1	併任開始	杉山 政則			薬学部	学部長
4.1	併任開始	杉山 政則			薬学部附属薬用植物園長	園長
4.1	併任開始	新小田 幸一			先駆的リハビリテーション実践支援センター	センター長
4.1	併任開始	宮下 美香			先駆的看護実践支援センター	センター長
4.1	併任開始	栗栖 薫			病院	副病院長
4.1	採用	長町 安希子			原爆放射線医学科学研究所附属放射線先端医学実験施設	助教
4.1	併任終了	田代 聡	附属被ばく資料調査解析部	部長		
4.1	併任開始	瀧原 義宏			原爆放射線医学科学研究所附属被ばく資料調査解析部	部長
4.1	併任開始	大瀧 慈			文書館	副館長
4.1	配置換	大谷 直嗣	病院高度救命救急センター	助教	病院集中治療部	助教
4.1	昇任	溝岡 雅文	病院	講師	病院医系総合診療科	准教授
4.1	昇任	黒崎 達也	病院	助教	病院周産母子センター	講師
4.1	採用	大下 慎一郎			病院高度救命救急センター	講師
4.1	採用	飛田 英祐			病院臨床研究部	講師
4.1	採用	朝山 京子			病院皮膚・運動器診療科	助教
4.1	採用	稲束 有希子			病院皮膚・運動器診療科	助教
4.1	採用	岩本 修一			病院医系総合診療科	助教
4.1	採用	大平 真裕			病院消化器診療科	助教
4.1	採用	加藤 貴大			病院皮膚・運動器診療科	助教
4.1	採用	庄司 剛士			病院皮膚・運動器診療科	助教
4.1	採用	高沢 皓文			病院皮膚・運動器診療科	助教
4.1	採用	土居 岳彦			病院造血管器診療科	助教
4.1	採用	土井 俊樹			病院泌尿・生殖器診療科	助教
4.1	採用	平郡 真記子			病院皮膚・運動器診療科	助教
4.1	採用	淵上 学			病院脳・神経・精神診療科	助教
4.1	採用	益田 武			病院呼吸器診療科	助教
4.1	採用	宮里 麻鈴			病院感覚器・頭頸部診療科	助教
4.1	採用	米田 真康			病院内分泌代謝診療科	助教
4.1	採用	大林 泰二			病院歯系総合診療科	助教
4.1	採用	鈴木 慶			病院高度救命救急センター	助教
4.1	採用	前田 修作			病院臨床研究部	助教

大学院修了者一覧

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.11.28	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	さこがわ けんじ	迫川 賢士	Involvement of homologous recombination in the synergism between cisplatin and poly (ADP-ribose) polymerase inhibition (シスプラチンとポリ (ADP-リボース) ポリメラーゼ阻害の併用効果には相同組換え修復機構が関与する)
25.11.28	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	たざわ ひろふみ	田澤 宏文	Blockade of invariant TCR-CD1d interaction specifically inhibits antibody production against blood group A carbohydrates (多型性のないT細胞レセプターとCD1d分子のシグナル遮断は血液型A型抗原に対する抗体産生を特異的に抑制する)
25.11.28	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ひらた じゅんこ	平田 潤子	Oxidative stress regulates expression of claudin-1 in human RPE cells (酸化ストレスによる網膜色素上皮細胞内の接着蛋白質claudin-1の発現変化)

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.11.28	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	かずさ ひろみ	数佐 洋美	Strong adhesiveness of a new biodegradable hydrogel glue, LYDEX, for use on articular cartilage (自己分解性を有する生体接着剤 LYDEX の関節軟骨に対する接着性の検討)
25.11.28	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	かじはら けんた	梶原 賢太	Variable procedural strategies adapted to anatomical characteristics in catheter ablation of the cavotricuspid isthmus using a preoperative multidetector computed tomography analysis (術前撮影の多重検出器列CT画像の解析を用いた下大動脈三尖弁峡部に対するカテーテルアブレーションにおける解剖学的特徴に即した可変的治療戦略)
25.11.28	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	しわ つぐか	志和 亜華	Significantly high level of late-night free cortisol to creatinine ratio in urine specimen in patients with subclinical Cushing's syndrome (サブクリニカルクッシング症候群における有意な夜間尿中遊離コルチゾールの排泄増加)

博士課程後期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.11.28	保健学研究科	保健学専攻	おおさか ひろし	大坂 裕	リアルタイム加速度解析を用いた歩行分析法の研究

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
25.12.31	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	よこやま さとえ	横山 聡栄	Effect of vitamin D supplementation on pegylated interferon/ribavirin therapy for chronic hepatitis C genotype 1b:A randomized controlled trial (C型慢性肝炎ゲノタイプ1bに対するベグイントロンリバビリン療法のビタミンD補充効果：無作為化比較試験)

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.1.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	たけだ いくこ	竹田 育子	Autosomal recessive Andersen-Tawil syndrome with a novel mutation L94P in Kir2.1 (Kir2.1に新規ミスセンス変異 (L94P) を認める常染色体劣性遺伝形式のAndersen-Tawil症候群)

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.1.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	みぞぐち ようこ	溝口 洋子	Simple diagnosis of STAT1 gain-of-function alleles in patients with chronic mucocutaneous candidiasis (機能獲得性STAT1変異を有する慢性皮膚粘膜カンジダ症に対する迅速診断法)
26.1.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ひらの まさとし	平野 雅俊	Low high density lipoprotein cholesterol level is a significant risk factor for development of type 2 diabetes: Data from the Hawaii- Los Angeles-Hiroshima study (低HDLコレステロール値は、2型糖尿病発症の危険因子である：ハワイ・ロサンゼルス・広島スタディより)
26.1.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ますだ たけし	益田 武	SK-216, an inhibitor of plasminogen activator inhibitor-1, limits tumor progression and angiogenesis. (Plasminogen activator inhibitor-1 阻害剤、SK-216 は腫瘍進展と腫瘍血管新生を抑制する)

大学院修了者一覧

博士課程後期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.2.27	医歯薬学総合研究科	薬学専攻	ふじた けいこ	藤田 啓子	ヒト胆管上皮癌細胞株におけるLysophosphatidylcholineおよび酸化遊離脂肪酸によるアポトーシス誘導機構の解析

博士課程後期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.2.27	保健学研究科	保健学専攻	おこなが まゆみ	岡永 真由美	助産師を対象とした周産期の喪失ケアのための教育プログラムの実施可能性と有効性に関する研究
26.2.27	保健学研究科	保健学専攻	しのはら ひろし	篠原 博	Does shoulder impingement syndrome affect the shoulder kinematics and associated muscle activity in archers? (アーチェリー選手の肩関節インピンジメント症候群は肩関節運動学と関連する筋の活動に影響するか?)
26.2.27	保健学研究科	保健学専攻	つねまつ みわこ	恒松 美輪子	Factors affecting breast cancer screening behavior in Japan - Assessment using the Health Belief Model and conjoint analysis (乳がん検診の受診行動を規定する要因 - ヘルスベリフモデルとコンジョイント分析による検討)

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.2.27	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	こばやし かなお	小林 加直	Identification and characterization of a novel <i>aac(6')</i> - <i>Iag</i> associated with the <i>bla_{IMP-1}</i> -integron in a multidrug-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> (多剤耐性緑膿菌の bla_{IMP-1} インテグロンに存在する新規アミノグリコシドアセチルトランスフェラーゼAAC(6')-Iagの同定と解析)
26.2.27	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	やなぎ まさひで	柳 昌秀	Is the association between smoking and the retinal venular diameter reversible following smoking cessation? (喫煙と眼底血管径の関連は禁煙後にも残るか?)
26.2.27	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	うらおか なおひろ	浦岡 直礼	NRD1, which encodes nardilysin protein, promotes esophageal cancer cell invasion through induction of MMP2 and MMP3 expression. (nardilysinをコードするNRD1は、MMP2およびMMP3を介して食道がんの浸潤を促進させる)
26.2.27	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	みやもと かつとし	宮本 克利	Rat cavernous nerve reconstruction with CD133+ cells derived from human bone marrow (ヒト骨髄由来CD133陽性細胞を用いたラット陰茎海綿体神経の再生)

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.2.27	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	とくやま たけひと	徳山 丈仁	Deterioration of the circadian variation of heart rate variability in Brugada syndrome may contribute to the pathogenesis of ventricular fibrillation (ブルガダ症候群における心拍変動の日内変動の低下が心室細動発生機序に寄与している可能性がある)

修士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬学総合研究科	医歯科学専攻	しむら なほこ	志村 葉穂子	マウス胚における中軸骨格の領域特異的軟骨および骨化パターン形成

修士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	いけだ みつやす	池田 光泰	黄色ブドウ球菌の表皮剥脱毒素産生性及び菌密度依存的な遺伝子発現制御領域 <i>agr</i> alleleの役割
26.3.23	医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	そん よんぐん	宋 龍根	T4trace -A high-throughput image analysis of neurites
26.3.23	医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	ほしの よういち	星野 羊一	センダイウイルスCantell株の増殖動態とIFN- β 誘導の定量的解析
26.3.23	医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	いとう たくや	伊藤 拓也	<i>Bmal1</i> フィードバックループと <i>Per</i> フィードバックループの分離を考慮した哺乳類の概日リズムにおける数理モデル構築
26.3.23	医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	こば ゆみこ	木場 由美子	Imipenem以外の β -ラクタム薬に高度耐性を示す <i>Klebsiella pneumoniae</i> の性状解析
26.3.23	医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	くぼ れいか	久保 怜香	セロトニンの枯渇が神経回路の信号伝達に与える影響の解析
26.3.23	医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	つだ しんたろう	津田 信太郎	前立腺IMRTにおける前立腺の位置誤差が線量分布に及ぼす影響の検討
26.3.23	医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	ふるかわ けんご	古川 健吾	原発性肝細胞癌と転移性肝腫瘍における背景肝障害の有無による体幹部定位照射後の放射線肝障害の差異

大学院修了者一覧

博士課程前期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	保健学研究科	保健学専攻	ますおか ゆうこ	升岡 優子	子宮頸がん検診未受診者の特性からみた検診受診率向上に向けた対策の検討
26.3.23	保健学研究科	保健学専攻	おおoura けいすけ	大浦 啓輔	労作性狭心症に対して経皮的冠動脈形成術を施行した患者における心肺運動負荷試験指標の心血管イベント発生の予測因子としての有用性
26.3.23	保健学研究科	保健学専攻	あそう こうじ	麻生 浩司	中年期以降の統合失調症患者の時間的展望に関連する要因の検討
26.3.23	保健学研究科	保健学専攻	よしだ たみえ	吉田 民枝	高等学校の校内マラソン大会における教職員の協働できる計画書のあり方の検討

博士課程前期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	くろせ めぐみ	黒瀬 めぐみ	乳酸菌由来Koglおよびそのフラグメントが <i>Porphyromonas gingivalis</i> LPSの不活化に与える影響
26.3.23	医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	とうま かなこ	東間 花菜子	殺菌消毒が石膏模型に及ぼす影響
26.3.23	医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	とみやま ゆう	富山 結布	乳酸菌 <i>Lactobacillus rhamnosus</i> KO3株由来バクテリオシンKoglの作用機序の解明
26.3.23	医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	かねいし はるみ	兼石 晴美	熱可塑性軟質スポーツマウスガード材の研磨法の検討
26.3.23	医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	おおの こうせい	大野 公誠	口腔分離株OG4株、OG5株の菌種同定と抗菌性に関する研究
26.3.23	医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	かたやま あさみ	片山 亜沙美	無菌期の口腔内模型の三次元測定における妥当性と信頼性について
26.3.23	医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	やまもと なつみ	山本 奈津美	紫外線と日焼け止め化粧品がシリコン系顔面補綴用材料の表面形状および色調に与える影響

博士課程前期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	さんとう まさたか	山頭 征岳	ラット初代肝細胞三次元培養系におけるアセトアミノフェンを用いた代謝活性化による肝毒性評価
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	やまもと あやか	山本 彩加	腎近位尿細管上皮細胞におけるHIF-1発現に及ぼすアルブミン負荷の影響
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	きむら めぐみ	木村 愛	培養細胞系を用いたアルブミンの細胞内移行に及ぼすガドリニウムの影響解析
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	おかだ めぐみ	岡田 恵	老化細胞におけるエクソソーム分泌のメカニズムと生物学的意義の探索
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	いけだ こずえ	池田 梢	血漿中マイクロRNAを用いた膀胱がん患者特異的なバイオマーカーの探索
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	こんつー うえいおからるか	Contu Viorica Raluca	脳内 在性ドーパミン誘導体1-(3,4'-dihydroxybenzyl)-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline (DHBT)のパーキンソン病関連ユビキチンC末端加水分解酵素(UCH-L1)に対する影響
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	わきもと めぐみ	脇本 恵	ツルリンドウ (<i>Tripterospermum japonicum</i>) 地上部の生物活性成分の探索
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	しば あきお	芝 晃生	ヒスチジン・アスパラギン酸のタンパク質リン酸化解析におけるチオリン酸基供与体(ATP-γS)利用の有用性の検討
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	みよし りゅうや	三好 龍也	Telomere DSE-FRET assayを用いた、テロメア結合タンパク質TRF2の阻害剤の探索
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	めき ゆうま	目木 勇馬	近接フォスタグ電気泳動法によるリン酸化タンパク質の分離分析
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	のじ きくこ	野地 紀久子	Flurbiprofenの糖尿病改善効果～insulin分泌・insulin抵抗性への影響～
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	いずみ ひろき	泉 宏樹	痛みの伝達制御における脳線条体の新たな役割
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	つねひろ まさや	常弘 昌弥	迅速かつ簡便にリン酸化生体分子を分離精製するためのPhos-tag磁気ビーズの開発
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	みやした いずみ	宮下 泉	アミルシランに対するシアニドイオンのエナンチオ選択的付加を利用する連続型合成反応の開発
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	こうの まみ	神野 麻美	有機スズ化合物の <i>in vivo</i> 神経毒性とうつ病様症状に関する研究
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	てしま せりか	手嶋 世里加	カラスザンショウ (<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> Sieb. & Zucc.) 葉部の成分研究
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	えだひろ けいすけ	枝廣 圭祐	ハイブリッド型ヒスチジinkinaseにおけるリン酸基転移反応の制御機構解析
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	かきぞえ さき	柿添 早紀	タイ国産植物の抗がん作用および抗がん剤多剤耐性克服作用の解析
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	いしはら えりか	石原 えりか	マクロファージ由来エクソソームを用いた膀胱がん細胞への新規核酸デリバリーシステムの構築
26.3.23	医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	やまもと ちえこ	山本 千恵子	新たな肺胞上皮細胞モデルの開発と薬剤性上皮間葉転換の解析への応用

大学院修了者一覧

博士課程前期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	りん せつ	林 雪	中国吉林省における家族看護に対する看護師の認識と関連要因
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	うわとこ ひろゆき	上床 裕之	ヒト頭蓋骨由来間葉系幹細胞の特性評価－神経分化能に着目して－
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	そうない けい	宗内 桂	副看護師長が必要と認識する役割遂行上の支援
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	まえだ ひさし	前田 久	免疫組織化学による毛細血管血行動態の検討
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	たかはし あん	高橋 愛夢	農閑期・農繁期前後の身体状態の変化を考慮した農業従事者の健康維持方法についての検討
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	ふじもと けいじ	藤本 圭司	通所リハビリテーション利用者の身体活動量, 身体機能, 健康関連QOLの特徴
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	ふじい やすあき	藤井 靖晃	脳卒中患者の身体機能・能力の時間帯による変化 －起床直後の自主トレーニングの効果－
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	ながき こういち	長城 晃一	パーキンソン病患者の記憶機能の特徴について ～重症度と運動症状優位側の観点から～
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	しおや よしき	渋谷 佳樹	片側上肢圧迫が反対側上肢の感覚機能と巧緻動作能力に及ぼす影響
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	こやま ようこ	小山 洋子	病院管理栄養士における職業性ストレスと精神的健康度およびワーク・エンゲイジメントの関連性
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	おおにし りよ	大西 李代	義務教育課程における系統的安全教育の検討 －災害安全教育に焦点をあてて－
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	しんたに あすか	新谷 飛鳥	人工股関節置換術前後における股関節周囲筋の筋力変化と日常生活活動について
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	ふじもと やすこ	藤本 泰子	泌尿器がん患者の疼痛マネジメントに対するセルフケア能力とがん疼痛との関連
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	なかた きょうすけ	中田 恭輔	ヒト間葉系幹細胞の軟骨分化における模擬微小重力環境の影響
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	ふきた すすむ	吹田 晋	中学校保健室における折り紙を用いた計画的な集団活動プログラムの検討
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	たなか たかし	田中 貴史	心身機能、生活機能の維持を目的とした脳血管障害者に対する訪問リハビリテーションの終了と継続要件に関する探索的研究 －介護支援専門員へのインタビューから－
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	ことしば そうむ	事柴 壮武	女子バスケットボール選手におけるサイドステップカッティング動作 －Toe-outが膝関節外反角度および筋活動に及ぼす影響－
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	くどう ひろゆき	工藤 弘行	回復期病棟入院中の患者の睡眠状況がsit-to-walk課題中の運動パラメータに及ぼす影響
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	い さんぎ	李 尚起	日本のサッカー審判員が体験するストレスの要因
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	あさえだ まこと	浅枝 諒	反復性膝蓋骨脱臼が歩行時膝関節運動に与える影響
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	くらうち ごう	倉内 剛	女性パーキンソン病患者のプロソディ認知能力の特徴とその関連要因について
26.3.23	医歯薬保健学研究科	保健学専攻	みずかわ まりこ	水川 真理子	慢性心不全患者における遠隔モニタリングシステムを用いた疾病管理プログラムによる急性増悪・再入院予防研究 (Pilot Study)

博士課程後期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬学総合研究科	薬学専攻	ただやす ゆうすけ	唯保 祐介	日本人II型糖尿病患者におけるDipeptidyl peptidase-4阻害剤リナグリプチンのPopulation Pharmacokinetics / Pharmacodynamics解析
26.3.23	医歯薬学総合研究科	薬学専攻	そがめ よしひさ	十亀 祥久	ビグアナイド系糖尿病治療薬の薬効・毒性支配要因としてのトランスポーター介在性輸送の解析
26.3.23	医歯薬学総合研究科	薬学専攻	うえむら ゆか	上村 有加	沖縄産植物由来の新規低分子化合物を中心とした構造解析研究

博士課程後期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬学総合研究科	口腔健康科学専攻	にしむら るみ	西村 瑠美	高齢者における口腔内知覚と摂食・嚥下関連機能の加齢変化について
26.3.23	医歯薬学総合研究科	口腔健康科学専攻	みね ゆういち	峯 裕一	Inhibition of cell-cell fusion during osteoclastogenesis by NHE10-specific monoclonal antibody (抗NHE10モノクローナル抗体は破骨細胞の形成過程における細胞融合を抑制する)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	口腔健康科学専攻	いわもと あきこ	岩本 明子	歯科診療時の音が脳血流動態に及ぼす影響 －NIRS計測を指標とした各種低減法の効果－
26.3.23	医歯薬学総合研究科	口腔健康科学専攻	きはら たくや	木原 琢也	患者固有データを用いたシミュレーションモデルの構築 －有限要素法による形態的・力学的咬合解析－
26.3.23	医歯薬学総合研究科	口腔健康科学専攻	みむら すみよ	三村 純代	ヒト胚性幹 (ES) 細胞由来神経細胞の前後軸決定

大学院修了者一覧

博士課程後期

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	保健学研究科	保健学専攻	いむら たけし	猪村 剛史	Interactive effects of cell therapy and rehabilitation realize the full potential of neurogenesis in brain injury model (細胞治療とリハビリテーションの相加効果は脳損傷モデルマウスにおいて神経新生を促進する)
26.3.23	保健学研究科	保健学専攻	かれすいー えるはむ	Khalesi Elham	The Krüppel-like zinc finger transcription factor, GLI-similar 1, is regulated by hypoxia-inducible factors <i>via</i> non-canonical mechanisms. (Krüppel様ジンクフィンガー型転写因子であるGLI-similar1は低酸素誘導性転写因子の非古典的機構によって制御されている)
26.3.23	保健学研究科	保健学専攻	いとう ともたか	伊藤 智崇	Effects of volitional walking control on postexercise changes in motor cortical excitability (随意的な歩行制御が運動後の運動皮質の興奮性変化に与える影響)

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	はやし あつこ	林 敬子	Visual imagery while reading concrete and abstract Japanese kanji words: An fMRI study (日本語の漢字の具象語と抽象語を読んだ際の視覚イメージ：機能的MRI研究)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	こじま たろう	小島 太郎	皮膚バリア機能障害モデルマウスを用いたアトピー性皮膚炎由来黄色ブドウ球菌の病原性解析
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	うえの かおり	上野 可織	ラット耳下腺導管細胞における重炭酸イオン分泌に寄与するNa ⁺ -H ⁺ 交換体と炭酸脱水酵素の活性制御に関する研究
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	とうーざーにーうー	Htoo Zarni oo	Identification of novel transmembrane proteins in scirrhous type gastric cancer by Escherichia coli ampicillin secretion trap (CAST) method: TM9SF3 participates in tumor invasion and serves as a prognostic factor (CAST法を用いた新規スキルス胃癌特異的膜蛋白質の同定: TM9SF3は癌の浸潤に関与し、予後因子となる)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	りまやんてい うるふあ	Rimayanti Ulfah	Evaluation of inner retinal layer of eyes with glaucoma and glaucoma with exudative age-related macular degeneration using optical coherence tomography (光干渉断層計を用いた緑内障および滲出性加齢黄斑変性症を併発した緑内障の網膜内層の評価) 1. Inner retinal layer comparisons of eyes with exudative age-related macular degeneration and eyes with age-related macular degeneration and glaucoma. (滲出性加齢黄斑変性症と同時加齢黄斑変性症および緑内障の網膜内層の比較) 2. Width of abnormal ganglion cell complex area determined using optical coherence tomography to predict glaucoma. (光干渉断層計によるGanglion cell complex abnormal areaを用いた緑内障診断)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	むかさ はなえ	向笠 英恵	鎖骨頭蓋異形成症 (CCD) 患者歯髄細胞由来疾患特異的ヒト人工多能性幹細胞 (iPS細胞) の単層無血清培養系での樹立およびその細胞特性に関する研究
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	かねだ えり	兼田 英里	歯周組織由来細胞の液性因子による間葉系幹細胞の骨分化制御
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ふじた たかこ	藤田 貴子	間葉系幹細胞の <i>in vivo</i> および <i>ex vivo</i> 分化誘導を併用した細胞治療の開発 - 大規模歯周組織欠損再生への展開 -
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	いまい はるか	今井 遥香	歯肉上皮細胞の炎症反応発現におけるlipid raftの役割
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	なかもり まさひろ	中森 正博	Molecular markers for granulovacuolar degeneration are present in rimmed vacuoles. (顆粒空胞変性の分子マーカーは縁取り空胞にも存在する)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ふじい たかひこ	藤井 隆彦	口腔扁平上皮癌細胞におけるインテグリンβ6の蛋白翻訳後修飾の解析と浸潤・増殖における関与
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	わたり いくえ	亘 育江	Usefulness of capsule endoscopy for patients with occult OGIB and effectiveness of polaprezinc for low-dose aspirin-induced small-bowel mucosal injuries (潜在性原因不明消化管出血患者に対するカプセル内視鏡の有用性と低用量アスピリン起因性小腸粘膜傷害に対するポラプレジンクの有効性) 1. Is occult obscure gastrointestinal bleeding a definite indication for capsule endoscopy? A retrospective analysis of diagnostic yield in patients with occult versus overt bleeding. (潜在性原因不明消化管出血に対するカプセル内視鏡の有用性: 顕在性原因不明消化管出血との比較) 2. Effectiveness of polaprezinc for low-dose aspirin-induced small-bowel mucosal injuries as evaluated by capsule endoscopy: a pilot randomized controlled study. (カプセル内視鏡を使用した低用量アスピリン起因性小腸粘膜傷害に対するポラプレジンクの有効性)

大学院修了者一覧

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	いしい やすたか	石井 康隆	Elevated expression of cyclooxygenase-2 and microsomal prostaglandin E synthase-1 in primary sclerosing cholangitis: Implications for cholangiocarcinogenesis (原発性硬化性胆管炎では cyclooxygenase-2 と microsomal prostaglandin E synthase-1 の発現が亢進し、胆管発がんへの関与が示唆される)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	さかうえ たいし	坂上 泰士	口腔扁平上皮癌細胞におけるユビキチン/プロテアソーム系によるインテグリンβ8の蛋白翻訳後修飾についての解析
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	おがわ こうた	小川 弘太	Mutant γ PKC that causes spinocerebellar ataxia type 14 upregulates Hsp70, which protects cells from the mutant's cytotoxicity (脊髄小脳失調症14型を引き起こす変異γ PKCはHsp70の発現を上昇させ、変異γ PKCの細胞毒性から保護する。)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	やぎ りょういち	八木 亮一	疾患関連遺伝子の系統的な検索法の確立
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	おおばやし まりこ	大林 真理子	口腔癌におけるmiR-203の標的遺伝子の同定とその機能解析
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	こぶけ せいじ	小武家 誠司	各種改変型 Dentin phosphoprotein の組み換えタンパク質精製とその機能解析
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ひらぐん まきこ	平郡 真記子	Elevated serum IgE against MGL_1304 in patients with atopic dermatitis and cholinergic urticaria (アトピー性皮膚炎およびコリン性蕁麻疹患者での血清MGL_1304特異的IgE値の上昇)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	たぐち ゆき	田口 有紀	単層無血清培養系での歯髓由来細胞を用いたヒト人工多能性幹細胞(iPS細胞)の樹立および維持に関する研究
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	てらさき もとみ	寺崎 元美	The clinical evaluation of the effectiveness and safety of colorectal endoscopic submucosal dissection (大腸ESDの有効性と安全性に関する臨床的検討) 1. Clinical outcomes of endoscopic submucosal dissection and endoscopic mucosal resection for laterally spreading tumors larger than 20 mm. (20mm以上の大腸LSTに対する内視鏡治療の有効性に関する検討～ESDおよびEMRの比較) 2. Endoscopic submucosal dissection for colorectal neoplasms in elderly patients. (高齢者における大腸ESDの安全性および有効性に関する検討)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	おびなた ゆうすけ	大日方 祐介	脳由来神経栄養因子(BDNF)のヒト血管内皮細胞における炎症制御能の検討
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	なかどい こういち	中土井 鋼一	Pathological risk factors for lymph node metastasis of T1 colorectal carcinoma (大腸T1癌の病理学的特徴からみたリンパ節転移リスクの検討) 1. Management of T1 colorectal carcinoma with special reference to criteria for curative endoscopic resection. (内視鏡摘除後大腸T1癌における取扱いについての検討) 2. Condition of muscularis mucosae is a risk factor for lymph node metastasis in T1 colorectal carcinoma. (粘膜筋板の状態からみた大腸T1癌のリンパ節転移リスクに関する検討)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	こさか けいいち	小酒 慶一	A novel TK-NOG based humanized mouse model for the study of HBV and HCV infections. (HBV及びHCV感染症研究のための新たなTK-NOGベースヒト化マウスモデルの検討)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ないとう ゆたか	内藤 寛	MicroRNA-143 regulates collagen type III expression in stromal fibroblasts of scirrhous type gastric cancer. (スキルス胃癌の間質の線維芽細胞においてMicroRNA-143はcollagen type IIIの発現を制御する)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	みやぎ ひでたか	宮城 秀考	Transcriptional Regulation of VEGFA by the Endoplasmic Reticulum Stress Transducer OASIS in ARPE-19 Cells (ヒト網膜色素上皮細胞ARPE-19における、小胞体ストレス変換分子OASISによる血管内皮増殖因子VEGFAの転写制御)

博士課程

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	わただに ゆうすけ	渡谷 祐介	Sacrocolpopexy with rectopexy for pelvic floor prolapse improves bowel function and quality of life (複合骨盤臓器脱に対する仙骨陰固定術と直腸固定術の併用は、術後排便機能と生活の質を改善させる)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	たかもと めぐみ	高本 愛	カルシウム修飾チタンの歯科インプラントへの応用に関する基礎的研究

大学院修了者一覧

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	うらべ ようじ	卜部 洋司	Association between serum levels of n-3 polyunsaturated fatty acids and coronary plaque detected by coronary computed tomography angiography in patients receiving statin therapy (スタチン治療患者における血清n-3系多価不飽和脂肪酸濃度と冠動脈プラークとの関連性-冠動脈CT血管造影による評価-)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	いわもと ゆうこ	岩本 優子	<i>Staphylococcus aureus</i> の表皮剥脱毒素ETA遺伝子プロモーター領域の解析
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	の みん	赦 敏	Odontogenic infection of <i>Porphyromonas gingivalis</i> induces preterm birth through galectin-3 (<i>Porphyromonas gingivalis</i> 菌性感染はgalectin-3を介して早産の発症に関わる)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	たけうち みちこ	竹内 実知子	Human platelet-rich plasma promotes axon growth in brain-spinal cord coculture (脳脊髄器官共培養においてヒト多血小板血漿は軸索成長を促進する)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	つか ゆうじ	柄 優至	実験的な歯の移動に対するレーザー照射の組織学および分子生物学的効果
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	もり りょう	森 亮	Promotion of skeletal muscle repair in a rat skeletal muscle injury model by local injection of human adipose tissue-derived regenerative cells (ヒト脂肪組織由来再生細胞を用いたラット骨格筋損傷モデルの骨格筋再生の促進)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	たかざわ こうぶん	高沢 皓文	Evaluation of magnetic resonance imaging and clinical outcome after tissue-engineered cartilage implantation: prospective 6-year follow-up study (アテロコラーゲンゲル包埋自家培養軟骨細胞移植後のMRI評価と臨床成績 術後6年の追跡研究)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	かとう たかひろ	加藤 貴大	Long-term administration of fluvoxamine attenuates neuropathic pain and involvement of spinal serotonin receptors in diabetic model rats (糖尿病モデルラットに対するフルボキサミンの長期投与は神経障害性疼痛を減弱させ、脊髄におけるセロトニン受容体の関与を変化させる)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	しょうじ たけし	庄司 剛士	The effect of intra-articular injection of microRNA-210 on ligament healing in a rat model (MicroRNA-210の関節内投与によるラット靭帯修復への影響)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	はまし みちお	濱西 道雄	Treatment of cartilage defects by subchondral drilling combined with covering with atelocollagen membrane induces osteogenesis in a rat model. (軟骨下ドリリングを施行したラット膝関節軟骨欠損をアテロコラーゲン膜にて被覆すると、欠損部に骨新生が誘導される)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ふじわら まい	藤原 舞	Prediction of Atrial Fibrillation After Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting Using Preoperative Total Atrial Conduction Time Determined on Tissue Doppler Imaging (組織ドップラー法を用いた体外循環非使用冠動脈バイパス手術の術後心房細動の発症予測)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	かじはら しほ	梶原 志穂	連通多孔性ハイドロキシアパタイトにインプラント体を組み入れた複合体のインプラントの骨支持に関する実験的研究
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	くぼぞの かずみ	久保 蘭 和美	顎骨骨幹異形成症および肢帯型筋ジストロフィー原因遺伝子TMEM16E/GDD1の機能解析
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	すぎやま あや	杉山 文	Characteristics of inspiratory and expiratory reactance in interstitial lung disease (間質性肺疾患における呼気時および吸気時リアクタンスの特徴)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ごとう のりこ	五藤 紀子	乳歯歯髄幹細胞におけるMSX1の役割
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ぞまん えむい まむと うず	Zaman Md. Mahmud Uz	Radiographic study of effect of bisphosphonate on jaw bone (ビスホスホネート製剤によるエックス線画像上の顎骨に及ぼす影響に関する研究)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	えぐち あきお	江口 明生	Proprioceptive function after isolated single-bundle posterior cruciate ligament reconstruction with remnant preservation for chronic posterior cruciate ligament injuries (後十字靭帯損傷に対するレムナント温存1重束後十字靭帯再建術後の固有感覚)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	しょう きん そ	Shao-Ching Su	The effect of mechanical overload caused by lubrication breakdown on COX-2/PGE ₂ pathway in TMJ osteoarthritis and application of celecoxib as anti-osteoarthritis drug (変形性顎関節症におけるCOX-2/PGE ₂ 経路に対する潤滑機能崩壊に因る機械的な過負荷の影響と抗変形性関節症薬としてのセレコキシブの応用)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	のがみ けいすけ	野上 敬介	残存歯咬合支持能力診断法に関する研究
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	おかだ しんすけ	岡田 信輔	臨床的クラウン-インプラント比の増加がインプラント周囲骨に及ぼす影響に関する実験的研究

大学院修了者一覧

修了年月日	研究科名	専攻名	かな氏名	氏名	論文題目名
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	すみ ひろみ	角 明美	歯の移動に伴う歯根吸収発現への歯髓組織反応の影響
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	よしざわ けんいち	吉澤 健一	母集団薬物動態-薬力学解析に基づくカルバペネム系抗菌薬イミペネムの投与計画に関する研究
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	なかがわ なおや	中川 直哉	Combined analysis of intratumoral human equilibrative nucleoside transporter 1 (hENT1) and ribonucleotide reductase regulatory subunit M1 (RRM1) expression is a powerful predictor of survival in patients with pancreatic carcinoma treated with adjuvant gemcitabine-based chemotherapy after operative resection (Gemcitabineを用いた膵癌術後補助化学療法における human equilibrative nucleoside transporter 1 と ribonucleotide reductase regulatory subunit M1 の有用性についての検討)
26.3.23	医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	きだ よしこ	木田 佳子	KL-6, a Human MUC1 Mucin, as a prognostic marker for diffuse alveolar hemorrhage syndrome. (びまん性肺胞出血症候群における予後因子としてKL-6の有用性についての検討)

平成25年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況・
奨学寄附金受入状況・寄贈図書一覧

○平成25年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況

単位：千円

外部資金の名称	受入状況	
	件数	受入金額
受託研究	28	98,832
共同研究	35	155,364
計	63	254,196

医歯薬保健学研究院、原爆放射線医科学研究所、病院の平成25年10月1日から平成26年3月31日までの受入状況を示す。
(千円未満四捨五入)

○平成25年度奨学寄附金受入状況

受入状況	
件数	受入金額（千円）
611	577,406

医歯薬保健学研究院、原爆放射線医科学研究所、病院の平成25年10月1日から平成26年3月31日までの受入状況を示す。
(千円未満四捨五入)

○寄贈図書一覧

寄贈者		書名	著者	出版社・発行年月
所属	氏名			
医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 医学分野 消化器・代謝内科学	茶山 一彰	医師たちの証言	谷川 攻一	へるす出版 2013年7月
医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 薬学分野 医療薬剤学	永井 純也	Human serum albumin	Masaki Odagiri	SOJO University 2013年

編集後記 / 表紙写真説明

編集後記

東日本大震災と福島原発事故という大惨事からの復興事業や後始末に追われつつ3年という年月が流れてしまいました。アベノミクスという経済政策により20年間続いたデフレ・賃下げの時代が終焉し、これから本格的な経済成長が始まるのか、いよいよ成否の分岐点が日々近づいているようです。その一方、科学技術の世界では昨年末、Battenice（「量子電池」と呼ばれる超高性能二次電池）という歴史的発明が発表され、21世紀に相応しい新しい時代の幕開けを感じさせています。この発明は、「自然エネルギー活用による産業・文化革命」を引き起こす重要なトリガーとなりうるものですが、嬉しいことに、その誕生には広島大学の研究者も貢献されているとのことで、特別な親近感を覚えています。この発明者は、余りにも高い独創性と新規性の故に、真の価値が認められるまでの数年間、関連分野の権威者や機関からの無視や侮蔑を受けた、少数ではあるが強力な周りの良き理解者や仲間により研究開発を進めることができたとか。過酷な冷遇期を乗り越えて至った成功体験の美酒の味は一層薫り高いものになったはず、その経験が羨ましくもあります。広島大学は、我が国の大学の中で先進的研究大学としての活動が期待されています、私も新規性に満ちた独創的な研究を目指して日々精進しなくては、と思っているこの頃であります。

平成26年3月 編集委員 大瀧 慈

表紙写真説明

霞会館リニューアルオープンセレモニーを平成26年5月7日(水)に行いました。写真は、霞会館前でのテープカットの様子です。(写真左から武田さん(薬学部学生代表)、西蔭さん(医学部学生代表)、河西広島大学消費生活協同組合理事長、江坂副学長(学生支援担当)、坂越理事・副学長(教育担当、平和・国際担当)、安井医歯薬保健学研究院長、戸澤一般財団法人緑風会理事長、浅尾さん(歯学部学生代表))



2014年(平成26年)6月発行

編集発行 広島大学大学院医歯薬保健学研究院・医歯薬保健学研究科広報委員会

住所 〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話 (082)257-5807(総務グループ)

FAX (082)257-5615

E-mail kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

URL <http://www.hiroshima-u.ac.jp/bimes>

印刷 株式会社ニシキプリント

研究院長・研究科長 安井 弥

□広報委員会委員(○委員長)

- 坂口 剛正(医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 教授(医学分野))
- 酒井 規雄(医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 教授(医学分野))
- 杉田 誠(医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 教授(歯学分野))
- 松浪 勝義(医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 教授(薬学分野))
- 花岡 秀明(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 教授(保健学分野))
- 松原 昭郎(医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 教授(医学分野))
- 竹本 俊伸(医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 教授(歯学分野))
- 大瀧 慈(原爆放射線医科学研究所 放射線影響評価研究部門 教授)
- 岡本 泰昌(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 准教授(医学分野))
- 吉川 峰加(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 准教授(歯学分野))
- の場 康幸(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 准教授(薬学分野))
- 片山 恵子(医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 講師(医学分野))
- 高橋 真(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 講師(保健学分野))
- 藤本紗央里(医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 講師(保健学分野))